

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	清水 順子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この科目は今年度初めて担当したものである。受講動機は、「資格取得」について、「関心のある内容」の項目が高い。日本語教師を目指し、日本語教育に関心がある学生であることを想定し授業を実施した。具体的には、日本語教師の範囲や日本語教育の範囲を、学生の身近な町北九州を題材に取り上げつつ講義した。さらに、自身の問題意識に合わせて調査タスクを設定し、調査したことについてまとめ、議論した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習到達度の自己評価に関しては、平均値4.0～4.8と非常に高かった。授業の目標を学生自身の課題と結び付け取り組んだ結果だと考えられる。 ・情報利用に関しても、インターネットでデータを調べたり、授業で指示するすることも多かったためか、自主的に行っていたようだ。 ・一方で、学習量の評価に関しては、「授業についていくのが精一杯」との記述や、「特に何をしたらいいか分からなかった」という記述もあった。意欲関心があったが、それらを知識に結び付けるための戦略を授業で示す必要がある。 					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、日本語教師養成課程の中の初めに履修する科目である。よって、日本語教育の概論及び入門的な位置づけとなる。日本語教育を初めて学ぶ学生へ向けた授業であり、それが妥当であったことが、「学習到達度の自己評価」の高さから伺える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

自由記述にあった「何をしていたか分からなかった」ということに関しては、毎回授業の終わりに授業目標を達成したかの指標と、達成するためのタスクを示したいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

今年度は初めて担当したが、学生のニーズと学習目標を照らし合わせて概ね達成できたと思う。次年度の課題は、自由記述も踏まえ、学習内容と自宅課題をバランスよく調整する。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（旧約聖書）	1	前期	必修	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の土台となる聖書理解が目的である。今期は久しぶりに対面授業に戻ったため、旧約聖書の基礎を体験的に習得できるよう、聖書を自ら開き声に出して輪読すること、紙芝居や絵本の読み聞かせ、DVD鑑賞、ディスカッションなどを取り入れた。学期ごとに行っている教会訪問も再開し、チャペルへの参加やミッションデーのレポートなどを評価に取り入れ、授業外でもキリスト教に触れる体験の機会を促した。</p> <p>建学の精神に直結する大切な学びとなるため、毎回の授業に記入するクラスポートフォリオをはじめ、チャペルにおいてもポートフォリオ提出を必須とした。</p> <p>今後は、さらに建学の精神に日常的に触れていく機会、聖書を読む機会を予習・復習などに取り入れる工夫を行いたい。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.1ポイントであった。事象を理解する視点や考え方取得は4.1ポイント、自分なりの目標達成は3.9ポイントであった。また、他の到達度自己評価も平均3.5ポイントであった。トータルの成績の平均値は約80%以上、遠隔チャペルのポートフォリオ提出率は90%以上であった。以上により、「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の世界観を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。</p> <p>キリスト教学(旧約聖書)はキリスト教の導入なので、今後、キリスト教学（新約聖書）の中で、前期で学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は本学の要となるキリスト教を学ぶ「必修」科目である。しかし、初めから興味を持って受講する学生はわずかであるため、キリスト教に全く興味のない学生も受講しているため、動機付けに工夫が必要であるが、総合的に全体として一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、行動目標に沿い、学問としての旧約聖書の講義による学びの他、毎週のチャペル参加を促し、授業内で学ぶ事の出来ないキリスト教の源泉に触れるなど、内容的には妥当であったと考える。
自由記述には、複数の「楽しく学べた」との回答があり、今後も引き続き、慣れない聖書の学びへの導入として、多様な教材に触れ視野を広げながら、学生の生活に結びつける視点を大切にしたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

毎回のクラスポートフォリオで学生の学びの現状をつかみ、チャペルポートフォリオの提出により、学生のチャペル参加の意欲など、全体像をつかむことが出来た。

本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要であるため、わかりやすい説明を心がけた。授業の質評価に関しては(1)評価基準については4.4、(2)課題については4.4、(3)「説明は理解しやすいものだった」は4.2、授業の質評価の平均値は4.3ポイントであった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.4、(5)学生の質問については4.1ポイントであったが、今後よりアクティブラーニングの手法を展開し、学生一人一人について把握する取り組みを行いたい。また、情報の利用に関しても、調べ学習を再開する予定である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の土台を学ぶ科目であるため、学期始めにキリスト教に関心や興味のない学生たちにも主体的に学習してもらうための工夫が必要である。受け身的に知識を得るだけではなく、学生が興味を抱いたテーマについて取り上げてディスカッションを行うことや、絵本・紙芝居の読み聞かせを学生自らが実践することなどを入れ、授業を造り上げる一員としての自覚を養うように促している。

授業の最後に記入して振り返りを行うポートフォリオに加え、遠隔チャペルの出席を促す「チャペルポートフォリオ」を導入し、学生のチャペルへの積極的姿勢を伺う材料とした。ようやく対面授業が再開したので、さらなるアクティブラーニングを検討し、キリスト教の学びを多角的に深められるような指導をしていきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	浅野 嘉延

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>科目の名称通りキリスト教に重点を置き、また、西南女学院と大学の歴史的転換点における内部での議論やその後の方向性について講義出来る方々を厳選させていただき、講義を行った。宗教主任補佐のラス・ボグ先生は本学院についての研究者であるため、動画による3回の講義をお願いした。クラスポートフォーリオ提出8回、及びまとめレポート20点で合計100点とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の出席率は全ての講義時間において各学科で90%を超えており、出された回答は熱心に書かれ、講義の内容も十分に把握されていた。講義者により多くの画像が配信されたため、印象深い回答がほとんどであった。したがって大部分の学生の成績は優、あるいは秀であった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP：この科目は総合人間科学の必須科目であり、本学の寄付行為や建学の精神、また、大学の設置趣旨の最初の項目に相当し、CP上妥当であると考え

る。
DP：この科目の目標は①西南女学院の歴史を知り、建学の精神「感恩奉仕」について理解を深めることができる。②設立者や宣教師たちの精神と働きを学び、「西南女学院生」としての自己形成を深めることができる。③キリスト教に基づく女子教育の意義を理解し説明できる、であり、DP1-1とDP4-1に相当しており妥当と考える。

上記より、内容的妥当性に問題はないと思われる。

なお、全学科の到達度自己評価の平均値は3.8で、自由記述からも特に問題点は見られなかった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では、提出物の評価基準、学習範囲や課題、理解しやすさの平均は4.3であった。大人数授業のため学生参加の機会、質疑応答の機会提供が難しいが、今後は学生が発言できる機会を積極的に設けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

久しぶりの対面授業、そして今年度は100周年ということもあり、どの学科の学生も意欲的に学ぶことができた。今後も、学生が本学の歴史や特色を十分に理解した上で、それぞれの専門科目に取り組み、西南女学院生としての自己形成の土台を築くことができるよう、内容を工夫したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅠ	1	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学での学びの質を高めるためのスタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』を身につけることができ、自らが積極的に課題を探究し、他者と相互に学び合う関係を築くことができることを目標としている。その集大成として、個人によるスライドを使ったプレゼンテーションをプロジェクトワークの結果として全員に披露してもらい、すべての学生が発表者の評価をGoogleフォームを使って行い、コメントなども寄せて、発表者にはその結果を分析してもらうことにしている。去年より単独者担当となったために、知識が偏るのを避けるため、自学が充実しているテキストも副教材として使用した。後期には、ゲストティーチャーもお招きして、さらにバラエティに富んだ授業を展開していく予定である。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>毎回ながら、A86.4%,B4.5%,C4.5%と正規分布していない成績となった。というのは、最後に回収する自学の副教材で大きな差が出ると予想していたのであるが、ほぼ全員が大変誠意のある丁寧な記述を行っていたため、差をつけることができなくなってしまったためである。Aの中では、プレゼンテーションの評価によって多少の差はあるのだが、皆それぞれにいいプレゼンテーションで、そこで大きな差をつけるには、ルーブリックを作成するにしても、大変主観的な判断となってしまう。また、ほぼ毎回復習プリントを配布して採点するのであるが、こちらもほぼ全員がとても誠意のある回答をするために、優劣がつけにくい。どこか差がつくような要素をもっと作って、成績を正規分布に近づけるのが今回も課題として残った。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>基本的なスタディスキルズを講義と自学の教材で学習したという点ではDP1は達成しており、またDP3,4においても以下に紹介する学生の自由記述の一部より達成されたと思う。「達成度自己評価」は(1)4.8(2)4.8(3)4.7(4)4.6(5)4.6(6)4.6(7)4.7(8)4.9(9)4.7(10)4.7とすべて高評価であった。特に良かった(8)が「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目であり、私は他の授業ではこの項目で高評価を取るのが授業の内容上難しいので、この初年次セミナーにおいて、グループディスカッションや発表の場を多く設け、学生が満足に感じてくれたのであれば、嬉しいし、他の授業でももっと積極的に自由討論の時間などを設けてみようと思う。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価は、(1)4.8(2)4.7(3)4.7(4)4.8(5)4.6であった。「やるべきことがわかりやすい授業でした。ディスカッションを通して他の人と話したり、プレゼンで自分の意見を言うことで、他の人のことを知る機会になって楽しい授業でした。」「プレゼンを初めて試してみ自信がついたのと、これから人前で話す上で気をつけるべきことや、大切なことを、プレゼンを通して学ぶことができたし、また自分で一から作ってプレゼンを仕上げて発表したいと思った。」など、授業自体とプレゼンでの学びについてたくさん成長したことをコメントしてくれる学生が多かった。(22名中13名)また、空き時間などに使用していたMy Career Noteという教材に関して「マイキャリアノートに取り組んでいく中で自分の強みと弱みに気づくことができ、強みを伸ばし、弱みをなくす努力をしようと思う面で成長できたと思います」という記述もあった。評価が難しい教材ではあるが、学生の学びが多いようなので今後も使用しようと思う。ただその際に、最大限にこのテキストのメリットを引き出し、教師がもっと介入できるよう私もたくさん準備を行いたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>この授業では最初で一回で年間目標を書いてもらう。初回の授業でそれぞれが時間をかけて決めて、記述してくれた年間目標をこちらで回収、確認してから、最後の授業で返却し、到達度を確認してもらってからまた回収した。学生には、後期の最後にまた返却するように伝えてある。その時には、1年をもう一度振り返らせて、3年後の自分に手紙を書いてもらう予定である。それを卒業式まで私がタイムカプセルに入れて持っておき返却する予定だ。学生たちには、この初年次セミナーの授業を通して、単なるスタディ・スキルズを学ぶだけでなく、大学に来る意義や、自分の目標を意識し、達成するためにはどのように学生生活を過ごせばいいのかを考えてもらいたいと思う。学生は、授業中に寝ることもなく、熱心に前を向いて聞いてくれたし、こちらが出す課題には毎回とても熱心に記入し、解答してくれていた。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>管理栄養士の必修科目のとして「健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系」の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。また、健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。</p> <p>出欠アンケートで、まとめと質問を設け、学生の理解度を高めた。その結果、授業で内容を理解しようという姿勢が全授業を繰り返すに従って向上した。授講の理由は必修科目であるが100%であった。しかしながら、この科目に関心があると答えた学生が10.5%と低く、健康関連科目に関心が低いことは問題と思われ、学生の各科目に対する位置付けがどのように形成されているか、考える必要がある。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は89±6.5点で、再試対象は0名であった。</p> <p>全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものは11名/22名（50%）であった。</p> <p>目標達成できたと答えた総数は19人中19名（100%）を示した。</p> <p>「達成度」は平均値が全項目で3.0-5.0の間(中央値)にあり、「授業の質の評価」も全て4.0（中央値）であった。</p> <p>「コミュニケーション力・表現力の獲得」は4名（21%）が不足を感じており、コロナ禍の影響もあると考えられる。</p> <p>予習、復習の課題が少なく、授業以外での予習復習は12人(19名中)はしていない。</p> <p>シラバスの情報を参考にしなかった者は8名（11名中）と低かった。</p> <p>欠席する者は少なく全員が積極的に受講していたが、今後、より関心を高め参加しやすい方法を考えたい。</p> <p>また、教科書以外の資料はインターネットを利用し、配布やアンケートの回収もネット上で行うことができた。</p> <p>自由記述の評価での記述が少なく、悪い評価は見当たらなかった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性について
本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めたことから、内容的には英語学科の学生にも妥当な内容であったと考える。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性について
成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると考える。

③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多い中、「学習到達度の自己評価」は19名（19人中）が達成できたと考えており、英語学科の学生に妥当な内容と考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価において、予習を全くしなかった者が12名（19名中）であった。
毎回授業の復習、興味関心をアンケートしたことで関心が高まっていけば幸いである。
シラバスを参考にしなかった者が24名（35名中）、授業計画を立てなかった者9名であった。
オリエンテーションにて十分な説明をしたせいなのかシラバスの利用者は9名と少ない。
次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。
授業過程を振り返ってみたとき、予習課題の提示などで改善を図りたい。
以上から、毎回のねらいを具体的に提示し、
毎時間に、授業の内容について、数問の問題を自作させた。
若干の復習と理解のポイントを意識できたかもしれない。
授業評価から、学生の意見を取り入れ、更なる改善を試みたいと思う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果を体感し把握させた。</p> <p>②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。</p> <p>③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターで自己の運動量を把握させ、運動の理解と意欲を喚起した。</p> <p>④1および3について毎時間記録と評価を行い、学期末に集計して実習期間全体の自己評価を行い、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の自覚と運動量の関係が理解できるように努めた。</p> <p>⑤チームスポーツでは、入学直後であることを考慮し、チームが固定的にならないよう種目が変わる毎にメンバーを替え、可能な限り多くの人とコミュニケーションが取れるようにした。チームではミーティングを試合前後に行わせ、ゲーム戦略立案と実行方法、チーム内での個人の行動や役割のポジティブなあり方を意識した行動実行を促した。また、試合後には必ず良い点や悪い点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームミーティング後、記録用紙にまとめ意識化し、チームで活動するための必要な要因を考えさせ、意識させた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は89点 (SD6.6)であり、再試対象は1名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが、理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達したものが14名（17名中,82%）であった。</p> <p>達成度に関する自己評価では目標達成できたと答えた総数は9人(9人中)で高値を示した。</p> <p>目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は9名、「事象理解の視点を得た」と思う者は9名、「課題検討力」を得たと答えた者は9名、「判断力を得た」と答えた者は9名、「学習意欲が得られた」と答えた者は9名、「必要技能を得た」と答えた者は9名、「表現力の向上」を得たと答えた者は9名、「倫理規範獲得」と答えた者は9名、「職業選択の参考」を答えた者は9名と高い自己評価を持たすことができた。</p> <p>欠席する者は少なく全員が積極的に受講していた。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p> <p>意欲関心を高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「総合人間科学科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。

③受講動機で内容に関心がある学生が33%で、単位獲得目的の学生が44%である。「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容であったと考ええる。

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっては言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
共生社会とジェンダー	3	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ジェンダーに関しては、身近な問題でありながら意識されていない場合が多いことから、アクティブラーニングを実施するにあたって、アニメやネット上の映像、ニュースや映画の予告、CMなどを新しい動画を教材として準備した。学生にもその旨シラバスに記載し、身近なテーマから授業に関心を持てるようにした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>評価は、最終授業の中でジェンダーを原因とする格差が解消した未来の共生社会を新聞記事として表現し、これに対し当事者性のある課題をどこまで社会的解決に結びつけるかを採点の基準とした。新聞作成はグループの作業となったので、個別の評価は各回の授業の感想において、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題に関心を持ち、自分の考えを述べることのできるかを加えた。ほとんどの学生がジェンダーを自分の問題としてとらえる力は身につけていた。新聞作成においては、グループで個性が際立ち、文章力、情報収集力など特徴が異なるため、ジェンダーをめぐる課題を社会構造と結び付けられているか、意欲関心が表現されているかを評価した。基本的に、テーマに関心の高い学生が集まっており、基準には到達していた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

新聞記事として表現された内容から、ジェンダーをめぐる現状に社会的解決が必要であること、それ実現するために求められる施策などへの理解は達成できたといえる。また、思考判断や意欲関心についても達成されており、おおむね内容的妥当性は認められる。ただし、関心の高いテーマ（例えばLGBTなど）へは考察が深い、より多様な人々との共生をジェンダーの視点から総合的に捉える力が不十分な学生も見受けられた。ただ、グループ討議などで他者の意見を聞くことで、おおむね新たな気づきにつながっていたと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

開講以来、初めてすべて授業を対面で実施し、グループ討議がより活発に行われた。自分自身の意見を述べることや他者の意見を聴くことに、楽しさを見出していた。特に、学科を超えてグループを作ったので、通常では話せない学生同士で思わず深い話ができただけでもあった。一方的な講義より、理解が深まったものと思われる。毎回、発表する担当者を決めて、またグループで発表内容を検討するなどして、主体的な学びの場となった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

ジェンダーや共生社会という概念については、もともと知識のある学生と全く初めて接する学生に分かれていたが、最終的には基礎的な知識を身につけたものと思われる。身近な問題を政治や経済と関連する理解へと結びつけることは、継続的な課題である。最終回で新聞作成をしたが、グループによっては時間が足りないという不満も出たので、時間配分については再考したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人文学入門	1	前期	必修	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年度までの当該科目で特に問題がなかったため、今年度も同様の内容とした。「不可」はなく出席が不足して単位の取得ができない学生がおり、授業外での指導の必要性を感じた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>前述のように、「不可」になったものがないかった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の自由記述が極めて少なく判断の難しいところではあるが、おおむね妥当であると思われる。ただし、入学したばかりの受講生がほとんどで理解できないままに履修を終えたケースもあるかもしれないことを念頭に置いて、各担当者がこの科目の位置づけについて積極的に学生に説明することも考えなければならない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「科目上の位置づけ」と同様に評価が難しいところではあるが、学生のコメントに不満は全くなく、大きな問題はないと思われる。さらなる授業改善のために、事前に担当者間で打ち合わせをすることが大切であろう。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

全体としては問題がないと思われる。在学生の満足度を上げることは学生募集にもつながるので、受講した学生の生の意見を聞いて今後に生かしたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>これまでの年度と同様に、1年生、全学対象、かつ苦手な学生の多い数学ということであり、また、受講の動機からも、基本的には興味関心よりは単位取得を目的として受講している科目であるため、内容理解へのモチベーションを上げる必要から、テーマを身近なものにすることを特に意識した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業アンケートの結果からも到達度自己評価において平均的に3.5～4程度の結果になっており、ある程度達成できたとは考えている。ただ、オンデマンド配信の形式から対面授業への形式に戻った結果か、課題の難易度は大きく動かしていないにもかかわらず平均成績がやや低下している点が懸念事項である。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は特定の学科のカリキュラムに関連すると言うよりは、全学共通の教養科目であるため位置づけは難しいが、学習到達度について概ね達成されたと評価できるため、この点についても大きな問題はないと考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学修時間等はある程度確保されており、基本的には問題なさそうである。ただ、オンデマンドで実施していたときには課題を実施しながら復習するなどが可能であったが、対面に戻った結果そういった復習の仕方ができなくなったためか、平均成績が低下している点が懸念事項としてあるため、配付資料などから復習しやすくすること、また、毎週の課題が成績評価上重要であることをもう少し繰り返し指導していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

オンライン授業になった2020年度に授業の進め方などを見直し、それに基づいて本年度も授業を実施した。その結果、基本的には成績評価の基準も明瞭になり、何をやれば良いのかという意味ではわかりやすくなっていると言えそうである。一方で、一度しか聞くことのできない対面授業という前提に基づいて、もう少しわかりやすくする点については改善していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	松田 憲

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度は昨年度までとは異なり、対面で授業を行った。講義配布資料を書き込み式にすることで内容理解を促した。講義では、実験デモや動画視聴を多用することで、学生の受講意欲と理解度の向上を試みた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験結果を見る限り、教育目標を達成できたと判断出来る学生が多くいる一方で、そうではない学生も散見される。遠隔から対面に変更したことで、学生の受講態度も向上すると思っていたが、毎授業後に課した小レポートも明らかに授業を聞いていないと思われる者もいた。特に教室の後ろのほうの席では私語も多く、途中退室したまま戻ってこない学生もいた。とはいえ、実験デモや動画視聴を挟むと私語が軽減される傾向もあることから、今後はこれらをさらに増やしていくとよいかも。また、学生から寄せられた質問は遠隔の時と比較して非常に高度なものが多く、少なくとも真面目に受講している学生にとっては対面講義のほうが有効であったと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

受講生は講義内容におおむね満足していると判断できる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度から対面に戻して行っており、オンラインの特に比べて受講生からの反応が分かりやすく、授業への反映が行いやすかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

来年度も対面で出来ると良いと思う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は初めて中国語を学習する学生を対象とし、中国語の入門知識をマスターすることを目標としています。授業の実施にあたり大切にしていることは2つありました。1つは、学習者に中国語の特徴と学習方法を把握してもらうこと、もう1つは学習者が楽しみながら、しっかり練習できるようにリズム感のある授業にすることです。</p> <p>②開講時に学習目標や学習方法、評価方法を明示した。毎回の授業に授業スケジュール及び予習・復習の内容を学生に明示し、予習・復習してもらった内容は必ず学生に発表してもらい、間違ったところを訂正し、分かりやすく説明しました。受講動機は「関心のある内容である」が54.5%であったので、大多数の学習者の受講動機に合ったものと考えられます。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>大多数の学生は毎回の授業に真剣に取り組み、各課の小テストは満点を取り、期末試験も優秀な成績を収めたことから上記のように評価した。</p> <p>また、学生による到達度自己評価において、(2)知識の確認、修正したり、新たに得ることができたの項目の中央値が5.0であった、(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができたの項目の平均値が4.4であったことから上記の評価は適切であったと言えます。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容の妥当性
本科目は「総合人間科学」に属する選択科目である。学生に中国語の学習方法を伝え、中国語学習において、分かる、できる、つながるといふ喜びを感じさせ、中国語大好き人間にさせることが最も重要だと考えて授業を進めた。学生が優秀な成績を収めたことから、内容的には妥当であったと考えられます。

②DP、行動目標からみての内容的妥当性
「受講動機」は関心のある内容であったことや、「到達度自己評価」において、(2)知識の確認、修正したり、新たに得ることができた項目の中央値が5.0であった、(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた項目の平均値が4.4であることからみて、内容的には妥当であったと考えられます。

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

常に学生の学習状況を確認し、無理のないように授業を進めた。
「授業の質の評価」の5項目の中央値はすべて5.0であることから授業の進め方は適切であったと言えます。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

「授業の質評価」5項目の中央値はすべて5.0であることから、総括的に高い授業効果が得られたと評価する。
如何にしてすべての学習者に同等程度の授業効果を得られるかが課題です。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	韓 京我

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハンゲル入門	1	前期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今回の受講動機をみると「関心のある内容である」56.3%、「単位数を確保する」37.5%との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組んだ。②授業の最初に学習準備状況の確認アンケートを行った。③毎回小テストと会話練習を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。④授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由には、「どのようなことをしたいかわからなかったから」もあったため、これについて復習項目と次回講義の予告をすることで自習を促す。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は92点であり、再試験対象は0名であった。全員が標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達したものは、16名だった。目標別に見ると、知識理解に関しては88%、技能表現は95%であった。知識理解では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また技能表現では、文字読み取りテスト、挨拶テストと自己紹介テストの実施で、「知識を新たに得ることができた」と「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で高い満足度が見られ、講義の重点を置いている点と学生の満足度が一致する結果が得られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として目標とした成果を挙げられたので、内容的に妥当性があると考えられる。②DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。③まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかり把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。また韓国語の発表の時間や会話の機会などコミュニケーションを図れるよう努めた。最終テストでは全員の平均点が高く、語学の基礎的レベルには十分達したと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フランス語入門	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>登録者6名のうち、4名から回答があった。</p> <p>志望動機は全員が「関心のある内容である」と回答した。未知の語学であるフランス語に対する関心が高いことが分かった。その他の回答は「単位数を確保する」(3名、75%)「資格取得に必要なである」(1名、25%)「GPAをあげる」(1名、25%)だった。教科書は、学習を始めた初年度からフランス語で自己表現できることを目的としたものを採用し、日常の会話や自分自身について話すことを重点的に取り上げた。コロナ禍に鑑み、毎回の授業スライドと音声はGoogle Classroomにアップし、欠席した際のフォローとした。さらに、予習復習シートを配布し、自習を促した。また、実際に旅行することをイメージするために、語学講座の番組等を用いてフランスの観光地や文化を紹介し、学習のモチベーションアップをはかった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は90点(±27点)であり、6名のうち5名は理想的なレベルに達した。3名がA評価、2名がB評価だった。学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と答えた割合は、DP1「知識・理解」、DP5「技能・表現」ともに100%だった。このことから学生の目標は「達成された」と思われる。学習量の面では、1名を除いて、1回30分程度以上の予習・復習を2～6回行ったと回答した。授業の課題以外に取り組んだ学習として、「読めない単語を調べて、発音の確認をした」「分からないところを徹底的に勉強した」が挙げられた。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業の質評価において、どの項目も評価は高かった（平均値4.3～5.0、中央値5.0）。1名を除いた全員が「評価基準は明らかであった」「学習範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」と回答した。そして全員が「学生が参加する機会が作られていた」「質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」と評価した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

2回の授業で1つの課を終えるペースを保ち、割合にテンポよく授業を進めることができました。コミュニケーション主体の教科書であったため、クラスメイトと話し合っって会話を披露する時間を毎課で設けることができました。少人数のため、1回の授業で発言の機会がひとりで何度も回ってくることもあり、緊張感を持って臨めたと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

昨年度は遠隔授業だったが、今年是对面授業が全面的に復活し、遠隔授業でその有用性が確認できたGoogle Classroomを併用しながら対面授業を行うことができた。マスク越しながら、会話主体の語学の授業を無事に終わられたことに安堵している。一方で、クラスの外での学生の主体的な学びには課題が残る。まだ旅行がしづらい状況で、フランス語圏への旅を具体的にイメージしながらの学習は確かに難しい。しかし宿題やテストのための勉強に終始しては意味がない。来年度は、学生がより生き生きと学べるクラスづくりを目指したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語表現法	3	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今年是对面での講義が叶ったので、かなり学生との交流があり、理解度がこちらに把握できた点良かったと思う。特に日本語表現法は、単なる座学のみではなく、演習の要素を併せ持つことも大切になってくるので、じっくり考える時間を設けることが出来たので、教師と学生との信頼関係を築くことができたように思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	一応80%までは習得できたのではないかと思います。学生たちの本気のやる気度はなかなかのもので、他の学生たちの文章をも披露しながら講義を進めた。その甲斐あってか講義が活性化したように思う。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目の位置づけから見た内容的妥当性については、80%は活かされていると思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本来は、小グループに分けて文章構成の見直しをするのが一番の方法であるが、この度はコロナ禍でもあるので、「一文構成」の方法から徐々に長文化する策に切り替えて基礎力アップに全力投球した。これはこれとして理解の効果はあったように思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

出来得る限り、マンツーマンの個別指導を徹底的にこなし、学生の理解度を殊更チェックすることを今以上に心掛けたく思う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>高校までの学習状況で、パソコンの扱いに慣れている学生とそうでない学生が混在しているため、課題を平易なものから高度なものまで段階的に用意し、高度な課題の一部は上級者のみを対象としたオプション扱いとした。全授業回のうち、前半は基礎技術の習得を行い、後半は実践的な取り組みとすることで、学習意欲の継続と学習内容に対する興味喚起に努めた。</p> <p>情報関連の知識・技術が今後の学生生活や就職後に必須であることを理解できるよう、課題の内容を工夫した。</p> <p>また、後半では、各自が目指す職業の社会的意義や多様な活動についての情報収集を通し、職業そのものおよび身につけておくべき情報技術について、理解を深め実感を得られるよう学習プロセスをデザインした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。</p> <p>授業アンケートの到達度自己評価の項目のうち、本科目に特に関係する(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、の結果は良好であった。</p> <p>授業外の課題を行っている学生は少ないが、これは授業の課題量が多く、一部は宿題となるため、授業外の課題を行う必要性は少ないと考えている。実際、自由記述に「課題で十分」という記述が多い。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、全ての学科に存在する学科横断的科目であり、在学中のレポート作成や発表など様々な場面で必要となる。さらには、就職後の実務において、全学科の学生が要求される内容である。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけでなく能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であり、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は少ないが、授業を通して理解されるよう努めている。実際、到達度自己評価の項目のうち、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、の結果は良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

後半の能動学習を昨年度までのグループワークではなく各個人の一人プロジェクトとしておこない、プレゼンテーションも個人単位で行った結果、プレゼンテーションのクオリティーが向上した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	岡本 正宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業内容は、Microsoft OfficeのWordおよびExcelの前半部分（基礎）である。学生の受講動機の高率のもの、①必修科目である(66.7%)、④単位数を確保する(28.6%)、③関心のある内容である(23.8であった。必修科目であるが、高校生の時の情報教育内容は出身高校でバラバラであることから、統一した問題を与えるのではなく、前もって、基礎から応用までの種々の問題プリントを前もって与え、高校時代にかんがりのことを学んでいる学生に飽きさせないようにそれぞれの問題の解答をいつでも提出させるようにした。そのことにより、自己評価では、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(平均点4.3)、(1)自分なりの目標を達成させた(平均点4.0)、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、の結果が出ている。授業の質評価では、(1)評価基準は明らかであった(平均点4.1)、(5)学習の範囲や課題は明らかであった(平均点4.2)であった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>出身高校時代の情報教育の程度に非常にばらつきがあり、統一的に講義ができず、かなりの程度の知識がある学生については、かなりの課題を与えて回答させた。ただ、定期試験で不合格者がゼロであり、一定の知識理解を全員に与えることができた。しかし、自由記述の意見のなかに、課題で精いっぱいであった、時間に余裕がない、という意見がある一方、実際習ったことを使ってアンケートを集計するときに役立てた、授業後、Excelの各計算方法について再度勉強した、パソコンの操作やword、excelの使い方をたくさん学べてよかったという高評価もあり、改めて、この種の演習の講義進行の難しさを再確認した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容の妥当性は、上記の受講動機、学習到達度の自己評価からも問題はないと考えられる。特に、自由記述の意見で、「アンケートを集計するときに役立てた」、「パソコンの操作やwordやexcelの使い方をたくさん学べてよかった」の意見からも、内容の妥当性について問題はない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年度のオンライン演習ではなく、対面授業だったので、一人一人の理解度を見回ることができ、授業で十分理解できたとの評価を受けた。Excelの部分が多かったので、パワーポイントをもうすこしあってもよかったと意見も出た。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

学生の満足度は昨年度のオンライン演習に比べて高かった。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	岡本 正宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報の理解と表現	2	前期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この講義の目的は、HTMLを用いてホームページを作成できることにある。そのためのスキルを毎講説明して、トータル2回のホームページを作成させた。したがって、成績評価はペーパー試験ではなく、2回の提出課題の完成度(70%)と出席(30%)で行った。学生の受講動機は、②資格取得に必要である(73.3%)、④単位数を確保する(46.7%)、③関心のある内容である(40.0%)であった。ほとんどの学生は、ホームページの作成は初めてであったことから、講義は統一して行い、理解度にばらつきは生じなかった。ホームページの完成度は非常に高く、85%以上の学生の完成度は予想を超えるものであった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度自己評価では、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(平均点4.3)、(1)自分なりの目標を達成した(平均点4.3)であった。また、授業の質評価では、(2)期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった(平均点4.4)、(1)テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった(平均点4.3)という結果であった。また、自由記述では、習った技術以外の方法もネットで調べてやってみた、やり方を忘れないように真似て復習したなど、かなり学生の積極性が見られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容の妥当性は、ホームページの作成をHTMLを用いて1からできることであり、受講生全員が予想を超える完成度であったことから妥当であると考えられる。また自由記述で、実際にホームページのソースとホームページ画面を対応しながら作成した、分かりやすい説明や何回も教えてくださったおかげでホームページの作り方を知ることができたという評価を得ている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年度のオンラインの演習に比べると、対面でその場で対応できたことから、完成度の高いホームページを作成させることができた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

ホームページビルダーに頼らず、HTMLソースのみでメニュー形式の画面を作成させるなど、学生にとってかなり高度な知識を与え、完成度の高いホームページを作成させた。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
北九州の技と文化	3	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学の5学科からの受生(80名)があり、開講3年目で初めての対面授業となった。最初に採点対象学生数とアンケート回答者数()を示す。看護12名(4)、福祉:26名(9)、栄養:7名(4)、英語:9名(3)、観光文化:26名(6)。英語学科の学生への評価アンケートでは、4. 学習量の評価の(1)授業前の予習時間が、昨年度までは、ほぼゼロであった。これは予習課題を掲示していないことが問題であった。今回は外部講師には授業1週間前には、少なくとも30分は事前学習が必要な教材を公開できるように依頼した。5名の外部講師は、動画、文字資料の形式で課題を出してくれた。4. 学習量の評価の(1)授業前の予習時間、(2)授業後の復習については両方とも、①(0回)2名、残り1名は②(1回)であり、事前学習課題を出した意味があったとは言えない。外部講師をお願いして出していただいた課題である。しっかり予習させる方策を考えたい。シラバスは100%が参考にしたとしている。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>5学科の成績(%)を示す。看護:A33.3、B25、D25、E16.7。福祉:A26.9、B23.1、C11.5、D7.7、E23.1、J7.7。栄養:A28.8、B28.6、C14.3、E28.6。英語:A22.2、B22.2、C33.3、D11.1、E11.1、J7.7。観光文化:A19.2、B26.9、C11.5、D19.2、E19.2、J3.8。評価はレポート(60%)とレポート外の提出物とは五人の外部講師の授業についてのコメント5回分(評価40%)とした。前年度までは、レポート100%としており、不合格者が4割出る学科もあったが、今年度はレポートが60%となり、分散された形となり、履修が昨年度よりは容易になったと言える。授業評価の6. 図書館利用(2) CiNiiなど都市間から利用できる学術データベースを検索して、利用したについては、学科毎に%で示す。看護(75)、福祉(1.1)、栄養(25)、英語(33.3)、観光文化(50)。具体的には、レポート用参考文献の探し方として、授業中に大学図書館の朝日(クロスサーチ)への入り方をさせたことで、利用率は上がった。アンケートでは学習量については、回答者3名中、予復習が①(0)が2名いる。つまり、三分の2が予復習ゼロである。</p>					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

到達度自己評価の10項目の平均を5学科別に%でみる。看護：3.94, 福祉：3.07, 栄養：2.72, 英語：3.63, 観光文化：4.5となる。3年前期の選択科目であり、あくまで総合人間科学の科目であるところが肝要と考える。学生の質問は「北九州の技と文化」でのレポートの形式に集中する傾向があり、なぜ専門の内容に書いてはいけないのかということがよく問われた。対象ではない、DP2（思考判断）、DP5（技能表現）も、学生からの提出物（コメント、レポート）の評価対象とせざるを得ないところに、DP配置についてはやや苦しいところがある。しかしながら、論理的思考や表現技能を3年になるまでには鍛えられていると期待したい時期に配置されている授業であり、カリキュラムマップ上の位置づけは妥当だと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価の5項目の平均を5学科別に%でみる。看護：3.92, 福祉：3.12, 栄養：2.68、英語：3.54、観光文化：3.42となる。最も低い項目は5学科共に（3）説明は理解しやすいものであったであり、5学科の数値（%）を示すと、看護：3.5, 福祉：2.4、栄養：1.8、英語：2.7、観光文化：2.3である。これは厳しい数字であるが、学生の不満が示されているとして、反省する必要がある。学生の意見には、集約すると担当者への意見が二人から出ている。

1. レポートの内容については納得できない。2. 科目名と講義内容があていない。回答します。レポートの内容は、総合人間科学の科目であり、専門科目ではないということを繰り返してお伝えしました。おそらく、具体的にタイトルを限定した方が学生の皆さんにはいいのですが、そうするとというプロセスがなくなります。わかりにくいようですが、シラバスに基づいて説明をしていくしかありませんので、その方向性で臨みたいと思います。
2. 外部講師の方には、シラバスを事前に確認していただき、承諾後に依頼をしています。今後ともこの要領で臨みますが、今回の要望も取り入れたいと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

総括的評価としては、もう少し成績も授業評価も伸びてもいいのではないかと考える。初めての対面授業であり、講師陣は遠隔授業よりも対面での授業の方が効果があると見込んでいました。5名の外部講師陣で昨年度までの遠隔時代からの継続は4名でした。5学科の学生に同じ授業をしても、学科によっては評価の差が大きくなります。英語学科では、到達度の自己評価、授業の質評価の両方共、昨年比で0.4以上上がりました。80名を相手にするのであり、一斉指導が中心にはなりますが、オフィスアワー等を活用して、個別の指導をするなどの方策を考える必要があると考えます。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全7回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を6団体招聘して、リアル講義の工夫をした。</p> <p>特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。</p> <p>初回講義の時には、この講義で何をやるかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させ、次の時間に必ずフィードバックをした。</p> <p>なお、今年度も複数学科合同講義で、多人数かつ少々リアルに欠けるところもあったかもしれないが、学生たちのリアクションペーパーから、また外部講師の先生方の力強いご協力により、十分な教育の提供ができたと思われた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、とにかく楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えられる。</p> <p>講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。

地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。

事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。

講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、今年度は対面にて、シラバス通りに進行した。

次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>例年、受講動機としては「単位数の確保」の割合が高くなっており、本科目の内容に強い関心を持って履修している学生が多いとは言い難い。従って、単位の取得という後ろ向きな動機の学生に、本科目を受講することの意義を理解してもらうことが重要な課題と考え講義内容を準備している。アンケートの総合的な結果や講義時に提出してもらっているコメントの内容から、その課題は概ね達成できたと思われる。</p> <p>なお、当学科の受講者数が少ないため、このリフレクションカードは全学科の結果を総合的に見て作成している。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目は、学生に将来のキャリア形成に役立ててもらえるような知識を提供し、早い時期からキャリアについて考えることを促すことを目的としているが、アンケートの「職業選択の参考になった」などの項目で良好な結果となっているため、概ねその目的は達成できていると考えられる。</p>					
	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

アンケートの結果から、多くの学生が専攻する分野の専門知識よりも、教養や社会人としての知識を習得できたと感じていることが伺えるが、本科目の趣旨の鑑みれば妥当な結果と考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目の位置づけを考えた場合に、予習や復習で学生にあまり多くの負担をかけない方がよいと考えて講義を行っていることもあり、自己学習の時間は少なくなっている。学生の意見から、国試対策など専門分野の課題を優先している学生が多いようであるが、それで問題ないと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、全学科合同で実施しているが、学科によってキャリアのために学生が求めている知識や情報が異なっていると感じている。どの学科の学生にも、履修したことが有意義であったと感じてもらえるように、今後も内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実践英語音声学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英語学科1年生の必修科目である。英語の発音やリズムについて専門的に学ぶ実践英語音声学は、大学で初めて学ぶ学生がほとんどであるため、丁寧でわかりやすい授業を心掛けるとともに、日常英会話やリスニングなどでも実践的に活用できる知識とスキルを身につけられるよう演習を多く取り入れる指導を心掛けた。今年度はCOVID-19の影響でマスクを着用しての対面授業であったため、教師の口元を見せながら授業を行うことができないことと、生徒一人一人の口元の動きを確認しながら授業を進めることができなかつたことを踏まえ、より丁寧な説明を心がけた。授業中は学生たちは皆、発音練習を積極的に行ないながら授業に参加しており、とても良い取り組み状況であった。また、学生のコメントに「発音を意識して練習するようになった」、「ほかの英語の授業の際に学んだことを意識して発音したり、練習したりした。」、「お風呂で発音の練習をした」とあるように、家庭での復習練習も全体的に意欲的に行っていた。</p> <p>受講学生のコメントには「正確な音声を細かく丁寧に学べて、理解して、実際に使えるようになるまでたくさん復習して身につけることができよかったです。」、「毎回の授業がとても楽しかったです。」、「英語の発音を詳しく学べてよかった。」、「きれいに発音できた時や音が似た単語の発音の違いがわかった時、とてもうれしかったです。」などの意見があった。後期は実践英語音声学Ⅱに続くので、さらに英語の発音やリズム、表現力を強化し、よりわかりやすく伝わる英語音声コミュニケーション力を高めるよう丁寧に実践的な指導を行なっていきたい。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかつたのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.9、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.9、「説明は理解しやすいものであった」は4.9、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.8と良好であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.8、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」は4.6と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの英語力に加え、発話力や音声認識力の向上に尽力する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に力を尽くしたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
グラマー・コンポジションⅠ	1	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 高等学校までの履修科目や習熟の状況については、学生ごとに大きな隔たりがあるため、既習事項と思われるものについてもわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。</p> <p>② この科目は英語学科における今後のさまざまな専門科目の基礎固めとしての位置付けの必修科目であり、受講動機については「必修科目である」という項目以外に回答した学生は少数しかいない。高等学校までの学びを振り返りながら新しく学んでいることを整理することができるような解説に心がけた。</p> <p>③ 予習の習慣がつくように、予習としてすべきことを明確に指示し、毎回予習してきたことについて確認する機会を設けた。</p> <p>④ 学生が復習をし、自分の学修の成果を確認できるように、毎時間前時の授業について的小テストを実施した。</p> <p>⑤ 毎回課題の確認をし、不十分な場合は個別に指導をした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の再試対象者は22名中2名であった。ほとんどの学生が標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生も多くいたが、一方で再試対象とならざるを得ない学生もいた。到達度自己評価については、全員の学生が全ての項目について肯定的に回答しており、各項目の平均値は4.0から4.6で、中央値は4.0から5.0であった。学生の学習量の確保のために、さまざまな工夫をし、学生の課題の提出の様子や小テストの結果からほとんどの学生が十分な学習時間を確保していたと思われる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CPカリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は「英語スキル科目」であり、中でも高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。</p> <p>② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、全ての学生が全ての項目に対して「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、ほぼ目標は達成できたのではないと思う。科目の特性上、学生が自分の意見をまとめたり話し合ったりする場面は作りにくい、学生からの質問に対応する時間は毎時間確保しており、全体では質問しにくい学生のためには授業後の時間に質問を受け付けたり、メールで対応するなど工夫をしたためか、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目についても全員が「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答した。毎回予習や復習が必要な授業の形態をとり、毎回具体的な指示を出していたが、30分以上の予習や復習の時間をとらなかったものが1名いたが、ほとんどの学生が毎回30分以上の予習と復習を行っていたことがわかった。課題に取り組みやすいよう解説の資料を配布するなどしたが、それでも取り組みにくい部分があったことも考えられるので、授業の中でも課題に取り組みやすいようにさらに説明を加えることにしたい。学生の学習量は例年に比べ大幅に増加している。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成できた。30分以上の予習や復習の時間をとらなかった学生が1名いたが、全体的には学習時間は大幅に増えており、ほとんどの学生に学修の習慣ができたと考えられる。予習や復習については、毎回具体的に指示したり、課題を提出させたりするなどに加え、学生が学修しやすいように、課題の説明を書いた資料を用意した結果、例年より学生の学習時間は大幅に増加している。一方で、課題に取り組み時間をほとんど取らなかった学生が1名いたことから、課題の量や内容を今後の引き続き検討したいと思う。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英検演習Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>英検（実用英語技能検定試験）準2級から準1級の合格を目指し、特にリーディング力の強化を行う。またレポート課題では出題形式・傾向に合わせた問題演習を豊富に行う。成績には、オンラインで自学ができるMy ELTの学習の進捗具合を評価に入れた。My ELTは、最初の方の回の授業と中間の回の授業で、皆でパソコン操作を行う機会を設け、確実に登録や学習ができるようにした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今回もコロナということもあり、試験場に英検を受けに行くことを積極的に勧めることができなかったが、英検がオンラインで受験を可能としており、学生は毎週、本番の英検の受験の機会を得たので、たくさんの学生が受験を経験した。前期授業前に英検2級に合格していた22名中4名（英検準1級合格者1名を含む）を除いた18名中、前期中に新たに6名が合格した。3名に1名のみが、合格したことで、嬉しいというよりは残念ではあったが、一つの指針として、毎回の単語テストの結果が良かった学生は必ず合格しているようなので、引き続き日々の努力の大切さを今後も強調する必要があると思う。学生アンケート自由記述欄には、リーディングや、英作や会話力の力など総合的に成長を実感した学生の意見が多数あった。また毎回単語のテストをしたので語彙力が上がったとの意見もあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置付けからみた内容的妥当性・・・本科目は「英語スキル科目」であり入学したての学生が、初めて本格的に英語の資格試験合格へと進む橋渡しの科目である。ほとんどの学生が優秀な成績を収めており、内容的には妥当であると考えます。②DP行動目標からみた内容的妥当性・・・本科目では、知識理解に重点を置いたもので、成績もさながら、毎回の授業の後での課題をほとんどの学生が終えるなど一定の成果を収めており、内容的には妥当であったと考えます。③まとめ・・・以上から、内容妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価は、(1)4.9(2)4.9(3)4.8(4)4.8(5)4.8ととても高い評価であった。それを裏付ける授業評価の自由記述欄のコメントとして、「教科書の中のトピックがとても面白くて、授業が楽しかったです。」「英検の対策がしっかりできたので良かったです」「英語の長文を読んだ時に先生が一文一文解説をしてくれるのでわかりやすい」「授業の最初にするwarm upでは英語で友達に伝えるのは難しかったけど、これを行うことで英検の二次面接につながるの良かったです」「毎回の授業の流れが決まっていたので受けやすかったです。隣の人とパラグラフについて会話したり、問題を協力して解くことも良かったです」などのコメントがあった。（一部）

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

レベルの違う学生を「英検演習I」「英検演習II」という二つのレベルでのみ分けるのは、難しく、しかも前者は全員が必修であることから、準2級から準1級まで対応できるテキストに変更したことで、全員にあった授業レベルで広く学習を促すことができました。英検に特化したテキストを使ったわけではないが、そのテキストを通して英検のポイントを説明したり、英検用の単語集を副教材として使ったり、レポートに英検の過去問を使用したことで、幅広いレベルを扱う英検の授業ができたと思う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英検演習Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>旧カリの「英検演習E」に続く科目であるが、新カリでは、単位取得条件として英検準1級合格を設けない代わりに、高いレベルの英語力がある学生だけを対象にハイレベルの授業を行った。また講義期間中に英検準1級の受験を強要しなかった。その結果、この講義をきっかけとして、合格に向けて学生が無理ない長期計画を立てることができるようになった。また英検準1級の単語帳も英検演習Iの授業のように半期で全て終わるというわけではなく、学生自身にその進行速度を決定してもらった。その結果、全体の半分ほどしか終わらなかったが、1週間ごとに暗記できる範囲での単語テストの出題となり、毎回確実に覚える動機付けができたと思う。授業アンケート自由記述欄には、「準1級の問題はどれも難しかったですが、講義を受けるうちに徐々に内容を掴める感覚が少しだけわかった気がします。卒業までに準1級を取得できるように夏休みからも勉強に励みたいと思います」と自由記述に書いてくれた学生もいた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業アンケートの「授業の質評価」では(1)(2)で4.1と高く、次に(5)で4.0、(3)(4)3.9であったので、妥当であったと言えるかもしれない。「学習量の評価」の自由記述では、「単語テストのおかげで知らない単語を身につけることができた」など語彙力の向上に満足する声や、「前に出て先生のように発表する機会が今までなかったのも、とても新鮮でした。ありがとうございます！」という意見があった。目標級の英検準1級に学期中に合格する学生は出なかったが、最初の授業でも学期中に合格を目指すというより今後の勉強へとつなげていくことが目標であると説明しており、総合結果としては「やや達成された」とする。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置付けからみた内容的妥当性・・・本科目は「英語スキル科目」であり「英検演習I」で英検2級に合格した学生が最終目標である準1級を目指すクラスであり、内容的には妥当であると考えます。②DP行動目標からみての内容的妥当性・・・本科目では、知識理解に重点を置いたもので、ハイレベルの単語を単語帳を確実に覚えるなど一定の成果を収めており、内容的には妥当であったと考えます。③まとめ・・・以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

去年の遠隔授業の名残として、和訳や補足資料をGoogle classroomに掲載して行ったりとネットも活用した。毎回の単語テストを口頭や記述で行ったり、学生に黒板を使っての発表の機会を設けたりと、遠隔授業でできないわけではないが、より臨場感を持って活動することが対面授業で可能となった。各回の課題、最終レポートと、総合的なDP1の能力を試す場としての試験を最終回に行い成績をつけた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「英検演習I」が細分化されるか、「英検演習I」とこの講義の中間レベルの授業が設定されれば、もっと学生のニーズにあったレベルの授業を多くの学生に提供できるのでは、と思う。現行のカリキュラムの中で、ハイレベルの学生の受け皿となるこの授業は貴重な存在であり、授業期間中のみに英検準1級を合格するのは難しくても長期的に合格するためのスタディスキルズを提供できる授業を今後も改善していきたいと思う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションⅠ	2	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Thankfully, we were back to face-to-face classes for this course from this year, and the class was much the better for it. We continued with the project based format we utilised in previous years. This allows for greater control over student workflow and we were able to keep the students moving ahead at a similar pace. For this semester, we focused on the media itself, looking at design and usability. The students worked through a series of lesson modules to achieve the goals of the course. In semester 2 we will focus on content and delivery.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The course was divided into skill-based activities that had to be completed and graded before being able to move to the next stage. This ensured that all students remained on target to complete the work. This generally worked well. This year, both A & B classes worked exceptionally well and achieved almost identical gradings. Class A achieved an average grade of 86.50% while Class B achieved 86.68%. Lowest score was 74%, highest was 96%, with a standard deviation of 6.68. No students from either class failed the course because of attendance or work issues.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This year also, knowledge and understanding (DP1) of the design and implementation of good presentations consistently improved. The nature of the work meant they needed to use critical thinking skills to move ahead, so DP5 was achieved. And their positive attitudes fulfilled DP4. All in all, the goals of all three DPs were achieved in equal measure in both classes.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For next year, the plan is for the content and coursework to remain largely the same as for this year as this program worked well for most students and good results were achieved. This year, I added more supplementary, self-paced, asynchronous material so that more capable or self-motivated students could move ahead at their own pace. This enabled them to develop greater skills than just following the in-class activities. I will continue to add to these materials next year.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The rubrics we created for this course worked very well and enabled the students to see both grades and feedback in realtime. We will continue with this system next year, though will continue adding more content to the rubrics. This will give students a clearer picture of their weaknesses and strengths.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プレゼンテーションⅢ	3	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was for students to develop the ability to explain elements of Japanese society, culture and history in English without the need to rely on any support prompts. The first steps towards achieving this were for students to firstly gain necessary background knowledge themselves, and then to learn how to naturally explain this in English. Here, I made the decision to use a bilingual reference book, and encouraged the students to firstly memorize the various English explanations, and then to be able to make these their own, adding their own original information, comments, or comparisons with non-Japanese cultures and societies, and delivering the information in their own unique styles. As the students taking the course were all English majors and interested in Western cultures, I chose a reference book which included such comparisons. As students needed to become confident with delivering this information in an adlib style, much of the class time was also devoted to pronunciation and speaking practice, providing opportunities for practice and feedback. All students who answered the class evaluation survey said that they took the course as they were interested in the course content, as outlined in the syllabus, thus I feel the approach taken was one that helped meet the needs of the students who took the course.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Overall the vast majority of students demonstrated that they had achieved the learning aims of the course through the various assessment pieces. Moreover, through the weekly classroom practice, it was clear that students' subject matter knowledge, and ability to express this in English, was becoming more and more sophisticated throughout the course. While there were of course differences in the students' grades for the course, which is also connected to their underlying English proficiency and academic skills, each student strived to improve in their own unique and individual ways, and each student showed a progressively maturing level of interest in the content being covered.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The small sized classes made it much easier to provide enough practice and feedback opportunities for each student, and vastly contributed to the overall success of the class. The students themselves also commented in their course evaluations that they were happy with the small class size and appreciated the chance to have a fully engaging class where everyone constantly had the opportunity to contribute, exchange, and receive feedback all in English.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Given that it was my first year to teach this particular course I felt that overall I was able to achieve the goals I had set, although this was largely thanks to the cooperative and outgoing attitude of the students taking the course. In preparation for next year I will review the course, textbook, supplementary materials and teaching and assessment approaches I used this year to try to find ways to more effectively and efficiently support student learning.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅠ	1	前期	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course is to improve the students' communicative competence. The textbook does a good job of presenting some of the essential basics that can lead to clear improvements. All the students were very motivated to work in a communicative environment. Their motivation and interest made it easy to provide numerous opportunities to practice and improve their communicative abilities.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>It is clear that the goals of the course were achieved. The students did a great job with everyone getting either an A or S grade in the course. Although some of the competencies were more challenging for those of a lower level, all of the students had a good attitude towards the course, its activities and ultimately its goals.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The course is well placed on the curriculum map and serves as an essential base for all of the department's communicative classes. The communicative and interactive nature of the course also helps in building a sense of community among the students in their first semester of university. Furthermore, it is important that the students feel they can interact with the other students and the teacher in a non-judgmental and friendly environment.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The classes went well as can be seen by the 5.0 evaluation of both the students' efforts for the course as well as for the course itself. As the course is now in its fourth year most of the problems with the curriculum have been worked out. The only issue that may still be a concern is that some of the later material in the course becomes a bit too easy for those students with higher competency levels.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Success is the only word that comes to mind with this class. The students were all very motivated and had a good attitude towards learning. There aren't any significant changes needed, other than the annual adjustment to meet the needs of the participating students.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語コミュニケーションⅠ	1	前期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Skills". We used the textbook "UnCovered 3" (Cengage Publishing) which offers students many chances to refresh skills and knowledge they learned in their high school years as well as communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. This was an excellent introduction to English studies at Seinan, and this class in particular worked on their English very proficiently.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Students were assessed on 4 criteria (Classwork 45%, Vocabulary 20%, Final test 20%, and Presentations 15%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades ranged from 84% to 92% with an average of 87.23% with a standard deviation of 2.55. In CHleru e-Learning, all students reached their monthly targets of 300 miles.</p> <p>As usual, we also collaborated with the Extensive Reading course, working on vocabulary building together. For this we made use of the Quizlet app, and all students seem to be progressing well.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Similarly to last year, this was an extremely focused and hardworking class, and they progressed well in all areas. They were strong in knowledge and understanding for DP1, and their positive attitudes and application to tasks meant they scored well for DP4 and DP5. Given the challenges of the current situation under pandemic conditions, it is fair to say that this class achieved all the DP goals that were set.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

In general, this class went extremely well as the course textbook is very strong, and the supplementary activities I prefer to use matched well with the content. For next year, if I am teaching this course I will focus on expanding the supplementary activities so that the students have a greater choice to meet their learning needs. As the whole vocabulary area of the textbook needed more focus with a prescribed set of items to study, much time was spent on these vocabulary items. This helped in their understanding of the content, and will be continued and supplemented on in next year's classes

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

At the macro level, assessment continues to be difficult when it comes to grading students because of the subjective nature of communicative activities. Using the content of the textbooks to assist with this has been useful, though runs the risk of not truly assessing their skills in communication areas. It may be worth introducing more in the way of activity grading and self- or peer-grading. In contrast, at the micro level we have continued to provide individualised assessment and advice that is relevant to each student, and we will continue with this process in the next year for this course.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語ディスカッションⅠ	2	前期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The course aim continues to be the same: To help students develop discussion skills and to be able to clearly present and explain their opinions about the topics under study.</p> <p>Students completed the required work, and were able to work through the course satisfactorily. Student attendance was good, and the students completed all the required work in a timely fashion. Overall they displayed good understanding and ability to work with the course content.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Assessment for the course was based around students' capacity to engage in discussion activities, showing a willingness to express their opinions, work with others to reach consensus on discussion points, and show the ability to reflect critically on ideas of others, either verbally or through written exercises. Generally, the students worked to achieve this. The level of cooperation in the class was high, and all students made efforts to express their opinions in English, and to ask for clarification and assistance if they were facing problems. Some areas were difficult, and further focus and development of skills are required, such as the ability to apply critical thinking to the issues under study.</p> <p>All students passed the class, with an average final grade of 79 (SD = 9, N = 17) and median = 79. Only 1 student received a mark below 70; this was due to attendance problems. Just under 50% of the class received a grade of over 80, with four students scoring 90 points or higher for the final grade.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

Students were focussed on the course content and generally tried to contribute to the class discussions. Overall they made good progress, and seemed to enjoy the class, and taking part in the required discussion and presentation activities.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As well as trying to get the students to take part in discussion activities, we worked a lot on having students present their ideas in the form of short presentations. Unfortunately we sometimes did not have enough time to devote to this as planned, so need to work on better time management in this respect. Overall though, the students were able to use the target language to present their opinions in a clear and coherent manner, were willing to share their opinions with their classmates, and showed general understanding and ability to work with the target language.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

I believe we will be using the same textbok and using the same course format next year. Balancing the time in a class to give students enough time to prepare, practice, and express their opinions equally is an ongoing challenge, and something that needs to be worked on.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Leaver Soren Eric

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語プロジェクトⅠ	3	前期	必修	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業では、リサーチとプレゼンテーションに重点をおいておりました。学生は準備を十分にして授業にのぞんでいました。学生の参加意欲は高く、プロジェクトとして英語での様々なイベントに関するリサーチをおこなったり、またそれについてのプレゼンテーションをしました。英語を使って学生がプレゼンテーションをする機会が授業のなかで多く取れたと思います。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	全体としてのトータルの成績、理解も高く、準備も良くできておりました。インターネットの利用も理解し、課題提出もよくできておりました。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

このクラスにおいて学生たちは、それぞれのプロジェクトの選択と研究に挑戦し、継続的な努力の結果、授業の要件を満たす情報源を見つけることができました。このような自発的な学習方法自体にも利点があると思われることから、DP上の位置づけは妥当だと考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今回の授業では、教え方は効果的だったと思われます。学生とのコミュニケーションもよくとれていたと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

このクラスの全体的な進行には満足しています。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
グローバル英語 I	4	前期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>As a fourth year course the aim is to integrate various skills and aspects of English that the students had learned over the course of their university education. Although 70% of the students chose the course to meet credit requirements, 40% chose it out of interest in the contents.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>It seems that the course was primarily successful in achieving the various goals of the DPs. 20% of the students achieved S scores and another 33% achieved A scores. Participation in class activities was always positive. Although attendance issues were not serious, there were several absences due to job hunting activities, as would be expected of fourth year students.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course sits well within the curriculum map as it has the students using not only various skills that they have acquired over the years, but also encourages review of knowledge that was gained during that same time. Their motivation and improvement can be supported by the students' average score of 4.3 for most of the items in the survey.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The students felt the course was good for them as they rated, on average, 4.3. I also felt that the course was successful in reaching its goals, as a couple of comments were added by the students noting that the class was good and interesting. Naturally, as this was the first time to teach the course, there are certain minor aspects that could use some improvement. In particular, the large number of participants was not anticipated, so rearranging certain activities to accommodate the larger number of participants was necessary.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

The course was successful overall, as mentioned in the above points. And as noted in part 6 there are no major changes that are needed to the course, other than adjustments for larger numbers of participants.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディング I	1	前期	必修	はい	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was to help students improve their reading. During the scheduled class time this involved doing reading and vocabulary activities. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read around 150,000 words over 15 weeks. The XReading virtual library and LMS was used to provide students with reading material and grade out-of-class progress.</p> <p>Most students engaged in the class seriously, and kept up with the required work. The class is quite challenging, but students generally accepted this worked to complete the requirements.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (60%) with the final test contributing 20%, and some small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. As with past years, one challenge is with getting students to do the outside reading regularly due to numerous competing demands for their time.</p> <p>The average grade for the class was 85 (n = 21, sd = 9) and a median of 87. Six students received a grade below 80, mostly due to failing to have done the required reading consistently each week.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course is quite demanding for the students, with quite a lot of outside reading time required. However, the level of participation and commitment was generally high, and a clear understanding and commitment towards doing the required out-of-class reading necessary to successfully complete the course. The students who focused on the classwork and managed to meet their regular reading goals all reported a sense of satisfaction with developments in their reading speed and understanding. However, although we are using a lower-level text with the A class, many of the students find the content difficult due to low levels of vocabulary and slow reading speeds. This can have problems with the pacing of the class, as some students had trouble completing the classwork in the time available.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This has not changed from previous years. The course is very much focused on attaining certain goals - reading X number of words, or X number of books, but at the same time demonstrating comprehension of the material being read. We are seeing similar outcomes as previous years, with a small number of students having issues with the out-of-class reading. Giving advice on how to manage their time and suggestions on when to read are somewhat helpful here, but it is still a challenge that is invariably down to the students' own time-management and self-regulation skills. Finding a way to help students who have trouble engaging in the out-of-class reading component of the course is important, as these students invariably are unable to successfully complete the required outcomes. While there had been a plan to devote some time in class to extensive reading, this proved to be unrealistic due to other factors with the text being used.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Focussing more on weekly goals and making sure the students are not leaving all the work until the end of the course which either places a heavy burden on their time, or leaves them at risk of failure. Incorporating a change to the grading system that is adjusted for their weekly reading performance as well as the final amount read may help here. Incorporating a shared reading component where students are reading the same book and in class completing communicative exercises based on the book may be one way to help students to better plan for at least part of their reading.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
リーディングⅢ	2	前期	選択	いいえ	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>新型コロナウイルス感染症関連の報道をはじめ、社会で実際に報道されている「生の」記事などを取りあげ、学生達が興味を持って読みたくなる素材を集めることに留意した。但し、難しすぎて諦めてしまうことがないように、英文の難易度や長さに配慮して選定した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>良い教材を選ぶことができ、受講学生達も興味を持って読んだと思っている。他の授業で、日英の表現に気をつけて翻訳する時間をあまり持っていないようで、その練習としても効果があったようだ。学習到達度自己評価、全項目平均4.2～4.3。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

英文の難易度や学生が興味を持つトピックを選ぶ点において成功し、ひとつの形になっている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

十分に目標・目的を果たしている。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅰ	2	前期	必修	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講学生の英語力や知的好奇心を把握し、それを最優先しながら、抽象的概念の説明で終わらないように、興味を引きそうな具体例を提示しながら授業を進めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>毎回提出を求めるリアクションペーパーには、ほぼ全員がぎっしりと授業内容のまとめや、感想を書き綴った。学生にとってはリアクションペーパーは、手間のかかる作業ではあるが、「講義のあとに授業内容を振り返ることで、自分の頭の整理に役立つ」という積極的な意見も混じるようになり、十分な手応えを感じた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

英語学科の開講科目としては、全ての基礎となる科目である。基本的英語学・言語学の分野に触れることは、英会話学校に通うなどのスキル重視の運用力養成と、一線を画する重要な部分である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

毎年工夫を重ね、その成果を確信できる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

十分達成したと考える。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライティング基礎	2	前期	必修	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The two main goals for this course. The first is to review and confirm some basic grammar in relation to writing. The second is to introduce writing structures in preparation for paragraph writing, which will be examined in more detail in the following semester.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Overall about 65% of the students received a score of A or higher. Although there were several students with C scores, it was not from a lack of effort. With more practice, which they will receive in the paragraph writing course in the second semester, they will be able to gain a stronger foundation for their writing. For the weaker students the course was a bit challenging, while for the more advanced students they were able to improve their skills and gain more confidence in their production.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

It can be said that the DP and CP targets were met as the students rated highly both their effort and the course with an average score of 4.8. The course sits well within the curriculum tree as a transition course. Reviewing basic rules that were introduced in the first year with a view to what they will need to do to succeed in the following years of the English program.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As the course was highly evaluated by the students (scores ranging from 4.8-5.0) and the students generally mastered the material, it can be said that there is not much need to recommend any changes to the course. The range of scores that the students achieved, as mentioned above, also support this position.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

I was really happy with the students this year. Their effort was really commendable. They also did a great job and asked for clarification when needed. They had a great attitude. The course was a great success.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
エッセー・ライティング	3	前期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教科書で指定されたトピックについて、授業で毎回自分の意見を書かせることにした。それがやりやすい教材を選んだ。全員分を毎回添削することはできないが、数名順番で選んで指名し、それを全体の授業で添削した。テーマを設定したライティングを数週間おきに課し、その際は全員分を添削、指導した。添削されてもされなくても毎週書く習慣を付けさせることに重点を置いた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	到達度自己評価、全項目4.3前後。自由記述のなかに、毎回添削して欲しかったという意見があったが、学生の気持ちとしては当然であろう。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

2年生時のライティング基礎、パラグラフライティングを踏まえており、妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

毎回ライティングを提出させ、毎回全員分を添削、指導、返却すれば学生の満足度をもっと上がると思う。しかしそれは授業に割く労力として負担が大きすぎるし、ただ闇雲に書くだけでなく、何がライティングにおいて大切か理解、納得する時間も必要であるため、今回のような進め方でよいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

十分に目的と目標に到達している。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語文学Ⅰ	2	前期	必修	はい	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、そのような中、文学の知識や楽しみを教授できるように工夫している。大切にしていること、重点を置いていることは以下の通り。英語で書かれた世界の文学の特徴を、その歴史の流れと関連づけながら重要な作家や文学作品を紹介する。また、それらの作品の原文を部分的に読む機会も設ける。早い時期に沢山の文学作品に触れて、読書の習慣を身につける。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>到達度自己評価においては、(1)(3)(4)(5)で4,2であり(2)(6)(7)で4.3で概ね高かった。(9)は3,9(昨年は3.6)で毎回低めの評価となるが、英語文学という特質上、職業倫理や行動規範などについて書いた作品でも選ばない限り、高評価を得るのは難しい項目である。昨年、評価が4.0の(8)において、コミュニケーション力は遠隔授業でもディスカッションなどを促すことがもっとできたのではと反省し、今年度は対面授業でも訳をさせることくらいしか、発言の場がなかったので、同じく4,0であった。只今、後期の「英語文学II」を実施中であるので、今後別の形でコミュニケーションを促し、数字がどう変わるのか観察したい。学生の成績は秀47.2%、優25.0%、良11.1%、可13.9%であった。</p>					
*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>	<p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

今回の授業アンケートの自由記述・学習量（課題以外に取り組んだ）の評価では、0回の学生が17名で1回の学生が14名であった。自由記述欄の学習量（課題以外に取り組まなかった）においては、「何をすべきかわからなかった」という意見が目立った。「課題が毎回出ている」「課題だけで時間がかかってしまった」「課題だけで十分であった」という意見も多く、こちらとしても、課題をたくさん出しており、その課題でDP/CPを達成するよう意図していたので、内容は妥当であったと評価する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「授業の質評価」は(1)4.3,(2)4.4,(3)4.2,(4)4.1,(5)4.3で昨年よりやや数値が落ちた。昨年は遠隔授業であり、これらの数値に関して、その前の年の対面授業との比較で分析していたが、数値の上昇に対面も遠隔も関係ないようである。遠隔授業で得た、Googleクラスルームの使用を資料のアーカイブ化や、学生の宿題提出の場として利用する機会を今年も活用しており、教員としては、対面と遠隔の両方の良さを生かせる努力を今後も続けていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

文学という専門領域を教えるにあたっては、教師の英語教員という枠を超えた深い専門性が授業の質に大きな影響力を持つ科目である。そしてその研究の内容を授業での情報提供や配布資料の充実という形で還元していけたらと毎年思いながら教育活動の傍ら研究をしている。達成状況としては、総合的には「達成」であり、課題としては、学生はこのままの学習意欲を維持し、更に予習や復習を丁寧に行えるように指導していきたい。今回は、授業アンケートの自由記述欄に学生たちがたくさん肯定的な感想を書いてくれた。和訳をすることの楽しさや、リーディング力の成長に触れた意見が多かった。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	齊藤 園子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅰ	3	前期	選択	いいえ	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>通訳に関心がある学生の受講が多いため、専門性を生かして通訳活動に関わる基礎的な知識やスキルを身に付けることを目指して授業を実施した。授業準備量は多くなるため、第1週の授業で説明した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講者の多くが授業課題の予習復習に丁寧に取り組んだ。その受講者を高く評価したい。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

意欲的な受講者が多く見られた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

技術表現のレベルがさまざまであった。授業標準の設定を一層工夫したい。また受講人数が当初の予定より多かったことから、授業運営面での修正が必要となった。一層柔軟に対応できるよう工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

授業運営上の改善点があるものの、概して教育目標は達成された。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
欧米文化交流研修 A	1	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course is to introduce the students to western culture and provide a practical period of practice. Under regular circumstances there is a practical overseas component, which was not available this year. In lieu of this, a practical day of activities was prepared that included work at Kitakyushu Global Gateway. The students' interest in the course was evident with the 100% response to 「関心のある内容である」.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The students' motivation and positive attitude were evident throughout the course. This is reflected not only in the 80%+ A and S scores, but also in their self-evaluation scores ranging from 4.3 to 5.0, as well as a course evaluation of 5.0.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

This course serves well as an introduction to various topics and interests that the students can and will encounter in their university career. For those students in the upper year groups they can use their previous studies and experiences to reinforce their knowledge and skills. In this respect the course is appropriately positioned on the curriculum map.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As the course focuses primarily on communicative skills it was nice to finally be able to conduct the course in person after the last couple years of pandemic restrictions. The students motivation and cooperative attitude went far in helping to make this course a success.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Although we were unable to conduct an overseas component to the course, everything went well and according to plan. It is hoped that the course can return completely to its original intention with students going overseas for practical training.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
メディア英語Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>For 2022, we returned to face-to-face classes. These were taught through using a combination of the Moodle LMS "My Study" portal for coursework along with the school's Google Suite. This is the first media class that the students experience, and most of the course is taken up with working on basic skills, and getting them up to speed on the CHleru e-learning system. Each week, they were given goals to achieve and specific items to work on. We also took this opportunity to do some IT skill building. We provided instruction on how to use Google Drive's suite of tools (Docs, Sheets, Slides, and Forms) and how to share and work collaboratively on projects. Due to the range of abilities and skills, it was almost impossible to teach them all synchronously. We got around that by giving 20 minutes to each of the four classes to work with the teacher while the rest of the class worked separately on projects and activities. We would all meet at the end of the class for 5-10 minutes to share and summarize what we did that day, ending with a free talk time for students who wished to use it.</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>Attendance was not a problem at all (apart from one student who retired from classes due to personal issues), and completion of tasks was handled well by all of the students. All students passed the course with grades ranging from 67% to 97%. The average grade was 83.82% with a standard deviation of 18.22. This grades were slightly lower than last year's online results, and this might be due to the return to face-to-face classes where social interaction features more strongly. A positive thing, in my opinion.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

In terms of willingness to work and attitudes, most of the students did amazingly well, given the fact this was their first semester at school and that they were being taught a skills class in English for the first time. They were held back a little by their basic knowledge and understanding, but that is very understandable given they had just begun classes, were working with unknown systems, and had never met their peers or teachers. The IT skills they gained were extremely useful for them, and we can already see the carry over into other courses.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

The students learned a lot in the first semester, and will carry that knowledge through to all of their classes using the a whole suite of activities and resources we have built up. Being a media class, the list of available online resources is massive, and we fully intend to implement as many of them as possible. Changes for next year include adding some form of credentialing so that the skills they attain can be recognised in some way.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

As in all of the media and presentation courses, the class was assessed in a totally task-based manner. For each activity, they were given a grade which they could access at any time to check their progress. For students who were slipping behind, it was a quick process to provide feedback to them and encourage them to catch up. We don't envisage any need to adjust this process significantly. We do, however, need to implement some positive achievement system for those students (the majority) who submit work punctually and to a high standard. This would include the credentialing mentioned in Section 6.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
時事英語入門	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>時事という分野は、難解なイメージが伴いがちである。そうした点を払拭するために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた英文記事の背景知識にも言及し、それらを日本語で説明することで、内容自体にも学生が興味・関心をもてるように心がけた。また、最新の時事英語を毎日更新しているウェブサイトを紹介して、授業以外の時間にも時事英語にふれる機会を提供した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1の知識理解に関しては、中間試験の平均点が、30点満点中26と非常に良好な結果が得られた。しかしながら定期試験については、50点満点中27.4で満点に近い答案とほとんど無解答など受講者間が得点差が非常に大きかった。それが平均点の下落につながったと考えている。厳しい分析をすれば、授業貢献度や中間試験の結果で、この科目は単位が取得できる(60点をクリアできる)という目途がついたために、気が緩んだ受講者がいたかもしれない。その根拠として、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目において、20点中14.1という平均値が出ているからである。定期試験の配点は大きいので、最後まで気を緩めることなく試験準備に取り組んでもらうためのアプローチの必要性を痛感した結果であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

時事的分野は、普段学生が意識しないとふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずは記事の背景を含めた内容の理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年は初回から対面授業であったため、久しぶりに学生と教室で直接コミュニケーションを取ることができて非常に有意義な時間を過ごすことができた。また受講人数が少なく、英文記事の背景知識などについても情報共有を行い、さらにそれを深掘りするための意見交換やディスカッションを行うことができた。また全員が丁寧な予習をしていたおかげで、予定していたシラバスの範囲を完全消化することができた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語にまずは慣れ親しむという入門レベルの目標は達成できたと思われる。実際、自由記述においても、「教科書の内容だけでなく、身近な話題の豆知識などをお話してくださったので、とてもためになった」など非常に好意的なコメントが記載されていた点もその証左である。今後も学生の授業満足度を向上させる取り組みに励んでいきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションⅠ	2	前期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of this course was for students to gain an understanding of the fundamental concepts of intercultural communication, and to try to think about the connections between these concepts and their own lived experiences, the experiences of others, and various issues in society. This year, I was thankfully able to have students engage in more activities and discussions to get them thinking about these issues in more concrete ways and to share their thoughts; however, this is something I would like to do even more next year, if it is possible under the COVID-19 related restrictions at that time. In addition, I also introduced additional materials and resources, such as newspaper articles, audio-visual materials, and specific activities to help students see how the concepts covered in the course play out in real life. This is something that I also tried to support through the assessment activities: weekly reflection papers and a final paper.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>The majority of students displayed a good understanding of the course material, and were able to use it to explain their own experiences and relationships, as well as issues within society. This was clear through oral presentations and comments made during class, the weekly reflection papers and their final papers. Regarding the final papers, while there were some well-structured and well-written papers which showed high levels of understanding of the course content and keen analytical skills, there were also many which suffered due to a lack of understanding about the basics of writing an academic paper. This was also an issue last year, one which I tried to address this year by introducing resources about writing an academic paper around the same time as setting the final paper. However, it seems that this was not enough to address what may be a more deeper underlying issue.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As it became possible this year to incorporate more chances for activities, discussions, and presentations, I felt that students were able to gain a greater understanding of the course material, and a deeper interest in the course, through sharing opinions with their peers and experiencing more practical applications of the course content. To further improve the course, I would like to incorporate even more opportunities for these kinds of activities next year.

The final paper is a major chance for students to demonstrate and further apply their understanding of the course content. However, with many students seeming to lack a deeper understanding of how to write an academic paper, I felt that students were not able to achieve their full potential. This year I incorporated time during class to introduce resources for this, however this did not lead to huge improvements in the quality of their papers, compared to those submitted last year. As this course is not about learning how to write an academic paper there is not much class time that can be allocated to instruction of this. However, this is something I would like to consider more when teaching this course next year.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Overall, I felt that I could achieve the course aims. Being able to conduct more discussions, activities and presentations during class certainly contributed to this. I would like to take this even further next year, if COVID-19 restrictions allow, and I would like to further consider how to balance the lecture and activity-based elements of the course when preparing for the course next year.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
エリア・スタディ I	2	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The main aim of this course was for students to begin to learn about key elements of Australian history and society through the lens of race, specifically looking at the topics of multiculturalism and Indigenous Australians. To help students understand how they can go about learning more about a specific society and culture, various materials were used, including statistics, newspaper articles, movies, music, and other online resources. Moreover, as the course was conducted almost entirely in English, I was careful to support students' understanding through the use of visual materials, revision quizzes, and various pair and group activities.</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The vast majority of students displayed a good understanding of the course learning points, engaged deeply with the materials, and made a good effort at using English to engage with difficult content matter. There were occasional incidences of misunderstanding when engaging with certain authentic materials, and I need to continue to think of how to incorporate more chances to work with students on this within the limited class contact hours. Last year this course was taught totally online, which made it very difficult to provide appropriate support and feedback at times. Being able to teach the course face-to-face this year made it much easier to conduct group work and to provide support and feedback, which I felt led to greater understanding of and interest in the course content by the students taking the course. For the students' research-based assignments, some students showed extremely high levels of analysis, and the ability to apply what was learned in class to their own topics, while others seemed to struggle with this. Supporting students' critical engagement with topics and basic research skills is an area where more work is needed.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

As the course was taught face-to-face this year it was much easier to incorporate group work, discussions and activities, which are important for ensuring student understanding of the content, especially as English was the language of instruction, and to engage student interest in the difficult topics being covered. Overall I felt that the class progressed smoothly, although I may need to rethink the number of weeks allocated to some topics, as things became rushed towards the end of the semester, and having more time to set up students' final assessment piece would possibly have led to the submission of higher-quality work by more students.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

I am quite happy with how the students engaged with the course this year - they demonstrated good understanding of the issues being covered, were able to engage deeply with the various authentic resources used during the course, and effectively and efficiently engaged in their group work. That said, I would like to continue reviewing the materials used this year, and student reactions to them, and identify ways to further improve the course to achieve even greater student understanding and engagement.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際経済入門	2	前期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、「異文化コミュニケーションI」「エリア・スタディI」と共に1年次に履修した「国際理解科目」の発展的内容を取り扱うことが予定されている。この点については受講動機においても「関心のある内容である」という項目が59.4%と相対的に高い比率を示していることから、授業への期待を窺うことができる。また、本授業は観光文化学科との合同授業であるため、経済の基礎知識を織り交ぜたレジュメを作成・配付することで丁寧に授業を進めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目の平均値は3.8とやや低いため、DP4はやや達成されたと判断されるが、到達度自己評価項目のその他の項目の平均値は、4.0以上となっているため、総じて達成されたと判断できる。また学生からのコメントで「楽しく学べた」、「国際経済を理解できた」との自由記述もあることもこの裏付けとして捉えることができる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP全体の平均値は3.8以上をマークしており、内容的妥当性については特に問題がないと判断できる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価項目をみると、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」という項目の平均値が4.1と比較的低いものの、その他の項目は4.3以上となったことから、学生に発表する場を設けながら今後もさらに質の高い授業を展開していきたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

全体としては授業目的は達成されたと判断できるものの、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目の平均値が4.1と比較的低かったため、今後は学生に対して発表の機会を設けるなどの工夫を検討していきたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
インターンシップ	2	前期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業は学生の就職活動そのものを支援するために開講しているのではなく、就職活動を通じて多くの業種を知り、自分の適性をしり、視野を広げることが目的としている、と伝えた。学生就職支援教会から外部講師を招き、専門家の視点から座学を担当して頂いた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	達成度自己評価が平均4.0以上である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

2年前期の配置になっているが、運用で3年前期に受講させている。数年前からカリキュラム変更をすべく機会をうかがっている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

外部講師が、学生達のロールモデルになる人物（学生に年齢が近い女性、仕事と育児を両立している）で、就職に関して学生の立場と企業の立場の両方を熟知しているので、極めて適任である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

今後とも、現在の外部講師と英語学科専任教員のペアで進めて行くことが望ましい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
職業選択と能力開発	3	前期	選択	いいえ	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機をみると、「関心がある内容である」と答えた学生は82.8%であり、「単位数を確保する」と答えた学生の65.5%を大幅に上回っていることから授業への期待が窺える。授業においては就職活動で避けては通れない「履歴書・エントリーシート」の作成、②集団面接、③グループディスカッションの3つを中心に学生が主体的に参加できるように工夫をおこなった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学習到達度の自己評価項目をみると、すべての項目が4.2以上の評価となったこと、また自由記述においても、「就職活動について知ることができた」、「就活について講義で知ることができて、今しなければならなかったことやアドバイスを知ることができた」、「この講義を受け、知らなかった業界や職種を知ることができた。面接練習、グループディスカッションが自分のためになった」などのコメントを根拠として挙げるができる。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は専門教育科目の「キャリア形成科目」の3年前期に担当されている科目であり、2年前期の「インターンシップ」、2年後期の「現代ビジネス人材論」に続く3年前期に担当されている。また、既述したように、受講動機において「関心のある科目である」と答えた学生が82.8%であること、自由記述においても「就職活動について知ることができた」、「就活について講義で知ることができて、今しなければならぬことやアドバイスを知ることができた」、「この講義を受け、知らなかった業界や職種を知ることができた。面接練習、グループディスカッションが自分のためになった」とのコメントがあることから内容的妥当性に問題は無いと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価については、5つの項目すべてにおいて4.5以上の評価となっているため、授業の進め方については問題ないと考えます。今後もさらなる授業の質向上に向け努力したい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価項目、学生の自由記述、授業の質評価いずれにおいても高評価を得ることができたため、一定の成果があったものと判断できる。今後も授業の質向上に向け不断の努力を重ねていきたいと考えている。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	高橋 克典

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際ビジネス論	3	前期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>当該期の対象が英語学科の学生であり、比較的将来海外で仕事をしたり、外国人とビジネスをすることがあろうことから、理論だけでなく、実際の海外ビジネスにおけるケースを出来るだけ盛り込んだ内容を組み立てるようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	学生の達成自己評価が5点の項目が一番多いが、次に3点であった。このことからすべての学生に対して満遍なく目標を達成したとは少し言い難い面があったと思われる。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

特に該当学科の学生においては将来国際ビジネスの現場に直面する可能性があることから、本科目の位置づけは妥当であるといえよう。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

改善として、期中に何等かの形で学生の意欲を確認し、もし高くない場合はどのような内容をより学びたいか知る為の調査をすることで、全体的な満足度アップへの改善となると思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

毎回の授業での発言や振り返り、あるいは授業評価より、意欲の高い学生の満足度が高いといえるが、半面、比較的意欲が低い学生の満足度が低くなる傾向が本調査の結果から読み取れる。課題としては、すべての受講生の意欲を高める工夫が必要であろうことがあげられよう。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
航空ビジネス研究	3	前期	選択	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・事前・事後学習の定着を目的に、必ず、次回の授業範囲を伝え読んでおくようにした。</p> <p>・特にこの科目においては、常に周りの状況を観ながら、このような事象が起きた場合、良きにしろ、悪しきにしろどのような効果がでるか想像してみる事の必要性を理解させるように務めた。結果、レポートの課題に対し考え方が深まり内容が充実してきたものが多かった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>・アンケート結果から、「到達度自己評価」では、各項目において90%以上の受講者が目標がだいたいにおいて、達成出来たと評価している。</p> <p>・「授業の質評価」においては、これも、90%以上の受講生から高い評価を得ることができた。</p> <p>・「学習量の評価」であるが、ここでは、航空業界を目指す者と、そうで無い者との差が大きく出ている。現在、航空業界以外の職種においても役に立つ授業内容としており今後も継続していく考えである。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

・受講動機を見ると、関心のある内容だから受講したが12名、単位数の確保のために19名であった。しかし、自己評価、授業の質評価の結果から、ほぼ関心を持って授業に参加していることがうかがえる。この講義では、航空業界の知識の習得のみならず、人間形成・人間力を養うことが肝要である旨、サービスの提供という観点から内容を組み立てている。これが、受講生に理解されたものと思料する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

・単位取得のために受講する学生への対応について、どのような方向性を持っているかを調査し、それに沿った対応をしていきたい。
・関心をもって受講してくれる学生については、更に興味が湧くように実践に則して講義を組み立てていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

・授業の質評価において、テスト・レポート、提出物の項目を始めとして、評価基準の明確性をよく理解してくれており、大変励みとなる。今後も、この基準は継続していくつもりである。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育ボランティア演習	3	前期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 教職課程を履修している学生とそうでない学生では、背景知識に若干隔たりがあることが考えられるので、教育学や教育心理学などを学修したことがない学生でも理解できるように、専門用語の使用等については配慮した。また、教職課程を履修している学生には既習のことで、解説をするなどして、すべての学生が講義の内容を理解できるよう気をつけた。</p> <p>② コロナ禍の影響で学外での実習の内容が急遽変更になったが、当初の教育目標を達成できるよう工夫して実施した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>すべての学生が標準以上のレベルに達し、再試対象者はいなかった。成績から見ると多くの学生が理想的レベルに達していた。到達度自己評価については、平均値は4.0から4.7、中央値は4.5から5.0であり、自己評価も全般的に高かった。また、半数の学生が「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」という質問に対して「取り組んだ」と答えており、大部分の学生が積極的に取り組んだことが伺える。コロナ禍の影響で、予定していたことについて次々と変更を余儀なくされ、中学校を訪問して学習支援活動を行ったり、オンラインで中高生と交流することが中止になってしまったが、博物館で子供向けの教育コンテンツを企画し実施することができた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性

1、2年生の専門教育科目で習得した知識や技能を用いて、児童生徒の学習を支援する活動を行うこととその準備や振り返りが授業の主要な部分であり、内容的には妥当であったと考える。

② DP、行動目標からみての内容的妥当性

成績評価から学生の達成度は概ね高く、学生も一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考えます。

③ まとめ

以上から、内容的には妥当であったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、どの項目についても「わりにそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しており、また、各項目の平均値が4.8から4.9、中央値が5.0であることから、かなり肯定的に受け止められていると思われる。コロナ禍で予定していたことが次々の中止になったことは、授業進行上大きな痛手であったが、授業の目的を達成し、学生たちの学びを深めることができる活動を実施できるよう修正できたことは良かったと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

コロナ禍の影響により、前年度立てていた計画を修正し、試行錯誤しながら実施し、結果的には学生がこれまでの学修成果を活用し、さらに学びを深めていくような活動を授業の中で行えたことは、この授業の成果の一つだと思う。すべての学生の成績が標準以上のレベルに達していることから、当初想定していた教育目標は達せられたと言える。一方で、博物館での教育コンテンツについて企画する際に初歩的なミスも結構あったので、基本的な知識や技術についてもきちんと身につけられるような内容を授業の中で取り入れたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	山崎 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
児童英語教育入門	3	前期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容については、文部科学省によるコア・カリキュラムを参考として、構成している。 ・本授業は、教職関連科目ではあるが、選択教科として教職志望でない学生も多く登録している。教職志望者には、十分な背景知識が得られること、志望者でない受講者には、本授業受講を通して、現行英語教育や自身の学習体験への理解が深められるよう、毎授業では教科書の内容を補足する背景知識や関連事項を加えたワークシートを準備している。 ・2年ぶりの対面授業であるが、未だコロナ禍収束のめどは立っていないため、学生間のグループディカッションには、慎重な考えを持った。そこで、教育アプリとして開発された意見交換プラットフォームLearnwiz Oneを活用して、個人としての意見表明、クラスメートとの意見交流の場を設定することとした。（スマートフォンにて利用可能） ・学生の理解度の把握、コミュニケーションの場として毎授業後のフィードバック、課題提出はGoogle Classroomにて行うこととした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分なりの目標を達成できた」の平均値が4.4で中間値が5.0であった。成績分布ではA11名、B12で、半数を少し超えた数であった。 ・「事象を理解する視点や考え方を得た」かについては、平均値が4.3で中間値が4.0、一方「専門分野の課題を検討する力を得た」では平均値4.3で中間値が5.0であり、両方において十分な達成感となっていない。 ・「学びを深めたいと意欲を持てたか」については、平均値4.3、中間値5.0であった。課題提出や発表において、個人差があり全体として十分な達成となっていない。 ・「技術を身に付けられたか」「コミュニケーション・表現力」においては、どちらも平均値4.2、中間値は4.0であった。授業には発表課題が設定され、全員が発表したり講評を述べたりする機会があったが、全体としては、基本的な知識理解に重点が置かれていたため、充分は達成感には至っていないと思われる。 					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>・本科目は、教職課程履修者、日本語教師資格取得志望者にとっては必修であるが、同時に単位取得のための自由選択科目である。そのため、学生の受講動機に幅があると思われるが、英語学科卒業後、人生のどこかの場面で「英語の堪能な地域人材」として、児童（小学校）英語教育に携わる可能性は高いと考えている。そこで、全員が必要な知識を身に付け、判断の基準を持てるよう計画している。到達度自己評価において、項目（1）から（9）まで平均値が4.2以上であり、中間値も4項目において5.0、5項目において4.0であることから、内容は妥当であったと考えている。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①「授業の質」評価において、全項目の中間値が5.0、平均値が（1）は4.3、（2）は4.4、（3）は4.4、（4）は4.2、（5）は4.5であった。（1）「レポート課題の評価規準の明確化」のため、毎回レポート課題において、マイナスの理由となっている点を明示して採点してきた。（2）「課題の明確化」については、毎授業にて説明を行った。また最終課題は授業初回に文書にて説明して授業参加の成果として取り組めるようにした。発表課題も開始3週間前に文書にて説明し、実施前の授業ではリハーサルも行った。（3）「説明をわかりやすくする」ため、ワークシートやパワーポイントにて要点を明示した。（4）「話し合い・意見報告」は、コロナ禍にあり、対面でのグループ討議は実施していない。それに代わるものとして、教育アプリとして開発された意見交換プラットフォームLearnWiz Oneを活用した。（5）「学生の質問を受け付ける場」は、毎授業後のフィードバックを利用して全員にコメントを残すようにした。学生の真摯な学習態度に感銘を受けることが多かった。・「学習量の評価」において、授業以外の学習時間が少ない学生が多かった。これは、履修動機にも明らかなように教職志望でない学生が多いことも関連していると思われる。今年度は、「必修・資格取得に必要な学生は回答者29名中7名であった。自由記述にも「授業内で理解できた」「他の教科の力を入れた」との理由があった。ただ、授業外で取り組んだ学生は、「自身の過去の英語学習を振り返るため、教科書を見直した」「インターネットで調べた」「資料を見た」「スピーチ準備に取り組んだ」と授業をきっかけとして学びを深めることができていた。</p> <p>②2020年度から「私の英語学習法」という発表課題を行っているが、今年度も好評であった。学生が学び合う姿が印象的で、そのことが全員が安心して発表できるクラス風土を作っていた。この風土は学生が入学以来本学での温かい師弟関係や友人関係で育まれたものであり、学生には卒業後も誇りとして欲しい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>選択科目として、学生の受講動機には幅があるが、シラバスに取り上げた項目に沿った内容には学生が概ね満足していると考えている。また、教職志望でない学生の毎授業後のフィードバックには、改めて自身の英語学習体験を振り返って体験をより深く理解する機会となっていることを示す記述が多く見られ、英語教育や教育全般についての視野を広げることに寄与していることも分かった。また学期末の振り返りを意識したフィードバックでは、意見交換プラットフォームLearnWiz Oneについても、「自分の意見発表とクラスの意見交流が行える」として高評価であった。</p> <p>今後は、対面授業が行える状況が続くと期待できるので、その利点を生かした授業内容、学生の活動を工夫する必要があると感じている。一方、Google Classroomにてレポート課題やフィードバック提出、学生との個別コミュニケーションが行えることを生かし、学生一人ひとりがきちんと学びに参加し、十分に課題に取り組めるように今後も努めたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Project-Based Learning (PBL) has become a popular focus for language learning, and this was implemented fully into this class. Using this approach, students worked on community-based projects in English that have a specific goal. For this seminar, we used Sustainable Development Goals (SDGs) as a focus for our learning. Each week, we would focus on one issue using presentations, guided research, discussions, and project planning. By the end of the semester, the zemi group had completed pre-planning for a project to help businesses affected by the Tanga Market fire. This planning continued through the summer vacation, ready for implementation in Semester 2. This zemi has been an exceptional group, and has been one of the best I have taught in my time at Seinan.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>All students in this seminar class worked extremely well together. We collaborated together to formulate new sets of goals and objectives, and the students worked very well to achieve them. Assessment, attendance, and participation have all been of a very high standard.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

For this seminar group, the goals of the DPs were all satisfactorily achieved. Students joined the group with clear goals and purposes, and worked towards these. It was particularly satisfying to see that even those students who have had trouble motivating themselves in other classes were able to participate in this class enthusiastically.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Each year's seminar group is totally different, so has to be dealt with in its own way. This year's seminar has been able to work to achieve the goals that shared in the overview they received upon selecting this seminar, so the goals for this group don't need to be changed in any way. Adapting to the needs of future seminar classes will need to be dealt with on the fly with a mixture of flexibility and creativity. Having said that, one of the goals for next year is to foster greater collaboration between 3rd and 4th year zemis, working together on joint projects.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

Assessment for this class is based around a combination of the teacher's own observations and the students' own self-assessments and peer review. This approach is transparent and collaborative, so there is no need to implement any changes in the foreseeable future.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ゼミ活動では、社会人マナーや敬語の使い方、挨拶などの基礎的な素養の醸成に加え、プロジェクト活動への取り組み、プレゼンテーション発表や双方向型の意見交換を多く取り入れることによって、社会人基礎力の育成を目指した。</p> <p>また、互いの自己紹介を自己分析形式で行なうことによって、ひとり一人の学生の良さや特技を発見し合い、認め合う関係を早期に構築できるよう工夫した。</p> <p>ゼミでは毎週2名ずつの学生がパワーポイントを用いてプレゼンテーション発表を行う。発表に向けての事前準備や計画性、期限厳守の習慣を身につけ、さらには発表内容の工夫や相手に伝わりやすいパワーポイント資料の作成、より伝わりやすい説明力など、さまざまな能力を総合的に伸ばすことができるようゼミ運営を工夫した。また、ゼミ生ひとり一人が前に出て発表したりファシリテートする機会を意図的に多く設けることで、学生個々がその役割を担うことを通じて各々の責任感や協調性、リーダーシップ力などを高める好機となるよう指導を心掛けた。</p> <p>受講学生のコメントには、「チームワークの大変さを知りました」という意見があり、プロジェクト活動を通じ、協働することの楽しさや苦労を学べたことがうかがえる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は4.4、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.4、「説明は理解しやすい物であった」は4.4、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は4.7、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は5.0と良好ではあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「自分なりの目標を達成した」は4.4、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は4.6、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.6、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.4、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は4.6、「職業選択の参考になった」は4.6と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの人間力、コミュニケーション力や表現力、マナー力や社会人基礎力の育成に力を尽くしたい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、学生たちの指導に尽力したい。また、卒業時にゼミ生全員が希望の就職先へ笑顔で羽ばたいて行けるよう、今後も引き続き学生ひとり一人の成長を応援して行きたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。</p> <p>② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるような企画として、サステナブル・ファッションについて調査し、アジア太平洋地域の若者たちとオンラインで話し合うというプログラムに参加した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>発表や提出物について、全員が熱心に取り組み、高い意欲関心を持っていることがうかがわれた。また、それぞれの課題を適切にやり遂げ、思考判断、技術表現もかなり身についたと思われる。</p> <p>学習到達度の自己評価については、全ての項目について1名が「少しそうでないと思う」と回答しているものの、それ以外の学生は「わりとそうだと思う」または「かなりそうだと思う」と回答しており、平均値は3.7から4.0、中央値も4.0から5.0で、学生自らもある程度達成感を得られているものと考えられる。</p> <p>学習量の評価については、予習や復習の時間をとることがなかったものはおらず、全員が授業の課題以外にも学修に取り組んでおり、積極的に学修に取り組んでいたことが窺える。このことは、学生の発表等からも窺い知ることができた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性
学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価については、全ての項目に対して1名が「少しそうではないと思う」と回答しているが、その他の学生は「かなりそうだと思う」と回答している。また、各項目についての平均値は全て4.0、中央値は全て5.0であった。授業の内容や進め方については概ね適切であったと思うが、反省点もいくつかある。受講生の中に日本語を母語としない学生が参加することが急遽決まり、授業を英語で実施することになったことから、学生の意見をうまく引き出せない場面が多かった。そのため、なかなか活発な議論へと持っていくことができなかった。このことは、互いの発言から自らの思考を深めていく機会を十分に設定できなかったとも言え、大きな反省点である。一方で、授業のほとんどを英語で実施したことが海外の学生達との会議で交流する際にスムーズに発言できたことにつながったという面もある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

急遽授業での使用言語を変更することになったことは想定していた以上にいろんな影響が出てしまったが、学生の課題や発言の内容については教育目標に達するものであった。学生各自がかなりの努力をしたものと思われる。一方で、図書館の利用やデータベースの活用等については十分学修の時間をとることができなかった点は反省点であり、後期の授業でこの点は補っていきたい。また、議論が深まりにくかった点については、考えやすい具体例を挙げたり、答えやすい選択肢を与えたりするなどして、議論を深めながら学修を進められるようにしたい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機を見ると「必修科目である」100%であった。8人全員の学生が自由意志で第一希望としてこのゼミを選択してくれている。そこで、この100%の意味は、「必修科目なので仕方なく受講した」という意味ではない。多くの学生が、ゼミの志願書に「文学を勉強したい」という趣旨の内容を記載しており、「関心のある内容である」も100%となっている。②授業の初めに新聞を分析発表する活動をし、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。この活動は、人にわかりやすい話ができるようになる練習の意味もあるが、自分が取り上げた社会問題に関して、ニュースの記事に載っている以上の自分独自の解決方法を提案するようにも願っている。また就職活動での話題作りや、面接での対応練習にも役立ててもらいたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>ほぼ全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだため、成績は1名単位を落とした学生以外は、全員「秀」とした。授業の質評価は、(1)5.0(2)5.0(3)4.8(4)4.8(5)5.0というスーパーハイスコアをつけてくれおり、学生の優しさに感動した。対面授業ということもあり、学生は毎回笑顔で積極的に発言を行ってくれた。そこで上記のすべての項目において「達成された」と評価したい。また学期中に個人面談を行い、各自の将来計画や、相談、要望などに耳を傾けた。その結果、TOEICの点数を上げたいという意見が多かったので、毎回の授業に十分程度ではあるが勉強する時間を設けた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容妥当性：ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：内容的に妥当である。③問題なし

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の意見（一部）：本を読むことはもともと好きでしたが、授業を通してなぜこう言ったのか、これは何を表しているかなど内容を深く研究するのがとても楽しかったです。イギリスについての関心も以前より強くなって、とても充実した時間でした。2、今までなかなか外国の小説を読むことがなかったのですが、今回の授業を受けていく中ですごく面白くて他にも色々読んでみたいと思いました。3、（省略）本の内容に移る前のマナーやSPIは難しいものもありましたが、かえって詳しく読み直すことで知識の一つになりました。また世の中の状況をチェックする習慣が付き、ニュースについて自分の意見をまとめることができるようになりました。など。3のマナーやSPIの内容は、毎回Googleクラスルームに色々な資料を掲載している一環で、クラスルームの存在が学生にとっても教師にとっても重要なアーカイブ資料として役立っている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

文学好きの全員が第一希望で入ったゼミだけあり全員が円満で親しみやすい雰囲気を持続してくれ、学習意欲も高い半期となった。学生たちの文学の深読みの能力はとても高く、発表では意見を明確に表現できており、教師を感動させてくれる場面がたくさんあった。何かゼミという枠を超えて、研究を外部の世界とつなげる活動ができればいいのであるが、教員の力不足でまだ教室を出れないでいる。他のゼミを参考にさせていただいたり、教育学会などにも顔を出して、私が教育者としての質を上げていけたらと思う。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Andrew Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>The aim of the course was two-fold. Primarily it was hoped that the students would use the skills gained in their first two years to examine, present and discuss more deeply on a variety of issues. The second goal was for them to become reflective of the person they are and how the issues that were discussed in class affect them as individuals and how they can affect those issues. Ideally, the students would prepare and complete a project of their choosing within the first semester. Their participation and effort were reflective of the interest they had for the class.</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>The students were keen and participated actively in class. Although not all goals were achieved they worked well towards those goals. Some students, due to their nature and circumstance, were more active than others. Everyone, however, was motivated (4.3) and achieved their own goals (4.1). Their efforts were repaid with scores of A and S.</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

The course sits well on the curriculum map in that it uses the skills they acquired in the first two years to move them forward towards the skills needed in their last year. Some of the students, however, did not put in as much effort outside of class as would have been wished for, as reflected in their reported amount of time spent preparing and reviewing for the course.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

One of the aims was to get them to use the various skills they learned in their first two years to move their communicative skills further ahead. Their evaluation of 2(7) with a score of 4.7 is reflective of the achievement of that aim. However, as noted in part 5, there could be more effort in work outside of the classroom, so that they could achieve even more.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

In general, the course was a success. Some improvements could be made to make their learning and achievements more impactful. It is hoped that the groundwork laid in this course will help make the fall semester course more successful.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	Kristen Maree Sullivan

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門演習Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>Through this zemi, I aimed to create opportunities for students to firstly learn more about the situation of multiculturalism, immigration policies, and related language and education issues in various countries around the world. Next, I wanted to provide opportunities to help them to develop their research, presentation, teamwork, and discussion skills and thus designed the course in a way that students would be working with different group members in different roles to read the assigned textbook, further investigate key issues introduced, and to present this to the class and promote further discussion amongst all class members. Overall, I felt that the students engaged well with the textbook and assigned activities, and their responses to the class evaluation also indicated that they used various resources and spent time on preparing for the classes.</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>Students had multiple opportunities to take on different roles in the class and to demonstrate their engagement with and understanding of the topics under discussion. It was clear week by week that overall the vast majority of students were developing the target skills of this course, although of course there is always room for further improvement.</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

There seems to be no particular problems regarding this.

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Overall, I feel that the approach I took to conducting the course was successful, and the idea to have students working with different group members as much as possible was effective. I made sure that every student had to contribute to the class every week, and student comments on the course evaluation showed that they appreciated the chance to find out how their class mates were thinking about the issues covered in class and to exchange ideas and opinions.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

Given that this was also my first year to teach this course, I felt that overall it went quite smoothly, and that the students seemed to be able to develop the skills, and gain further knowledge in the areas that were targeted in the class. The course used a key textbook, but students were also required to do further research. In hindsight, I feel it would have been better to have had a session towards the beginning of the course to introduce how to search for books and research papers, as it did feel at times that some students were over-reliant on google searches. This is something I would like to introduce when teaching this course again next year.

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必須科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、授業内容の精査は常に行ってきた。</p> <p>②全体を、教職の歴史の変遷、法制度などの基礎的知識理解を深める部分と、教職をめぐるさまざまな具体的事例の考察の大きく二つに分けて、授業を組み立てた。</p> <p>③後半の教職をめぐるさまざまな事例の考察は、昨今強調されている「チーム学校」という考え方を受けて、学校教育を支える多様な機能に焦点をあてて構成した。スクールソーシャルワーカー、不登校対応専任教員、夜間中学教員、院内学級担任、部活指導員などの実践例を映像を通して、教職の幅の広さ、奥の深さの認識を深めた。</p> <p>④学生同士の意見交換を大事にしたいとグループワークを積極的に取り入れた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			どちらともいえない	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、数度のレポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上1名、80点以上90点未満6名、70点以上80点未満4名、60点以上70点未満、60点未満（不合格）2名、全体の平均点は76.3点であった。</p> <p>③基本的に「知識理解」のみの評価基準であり、多人数かつ複数学科の学生により構成されているので「態度」を判定することは困難である。</p> <p>④「知識理解」については、授業及びレポートで当該課題についての調べ学習をまず行わせたが、これについては比較的よくできていたと評価できる。しかし、調べ学習をもとに自らの課題としての認識を深めるまでにはまだ十分ではない。2年生ということもあり、まだまだ進路についての自覚や目的意識が明確になっていないからと考えられる。</p> <p>⑤グループワークを積極的に取り入れたことで成果もあったが、人数が多いこと、学生が慣れていないこともあって活動しているだけというグループがあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性

本科目は、教職課程の科目であり、ほとどの大学でも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性については問題ないと思う。

②DPについて

教職課程独自のDPではないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①声がこもりがちの上にマスクをしているので、学生に聞き取りづらいという感想が多かったのは大いに反省している。できるだけゆっくり話すことを心がけたい。

②授業中に行った発言に対して批判的な意見があり、それについては真摯に受け止めたいと思う。しかしながら、明らかな誤解、憶測、思い込みによる批判については、納得はしていない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①1年後期に開講される「教育原理」が教育学への入門的科目であるので、本科目が職業としての教職に関する専門科目としては最初のものである。ガイダンス的な科目として、幅広く学校教師の仕事についての理解を深めようと考えたが、前半と後半で学生の態度に違いがあった。やはりグループワークを取り入れ具体例を考察した後半が反応がよかった。

②次年度からは、自らの課題と感ずることが出来るような授業構成と方法を改善したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	安海 和枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅴ	4	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○重点を置いたこと：学生が模擬授業を行う際に、実際の教育現場の情報を多く与え、教育実習に行く前に準備すべきことなどを具体的に示唆した。（英語で授業を行うやり方、言語活動の組み立て方など）。模擬授業を行う際に、前もって指導案等を送付させてコメントを付けて返すなどのやり取りを行い、入念に事前準備を行わせた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>○授業アンケートにおいて、全体を通じて、自分の目標をかなり達成したと回答した学生が5名中5名。○知識理解について、知識を確認したり修正がかなりできたと回答した学生が5名中5名。○態度について、専門分野について学びを深めたいとかなり意欲を持ったと回答した学生が5名。○技術表現について、コミュニケーション力や表現力をかなり高めることができたと回答した学生が5名中4名、わりに高めることができたと回答した学生が1名。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○本講義は資格取得(教員免許状)のためのものであるため、受講動機も5名中5名が資格取得のためであった。授業では実際に一人一人模擬授業を行わせ、そのフィードバックを共有するなど、その取得に特化した内容を展開することができた。その点では、学生から、自分なりの目標を達成したと回答した学生が5名中5名であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○授業は模擬授業を行う際に、授業者の振り返り、見学者の振り返りを書かせたものを次の授業で共有し、互いに気づきあい学び合う形式で進められた。そのため、専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができたか、専門分野で必要となる技術を身に付けたかというアンケートでかなりそう思うという学生が5名中5名であり、学生にとっては有益であったと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○課題：模擬授業を行う際に、図書館を利用して英語教授法の具体的方法を調べるなどの情報収集を行うことができなかったようなので（授業アンケートで図書館利用をしなかったという回答が5名中5名）、今後は図書館利用などの調べ学習を積極的に行うように指導したい。

リフレクションカード 2022年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道徳教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道徳教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道徳教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>○2021年度 全体平均81.3、英語学科平均79.4、秀25.0%、優37.5%、良25.0%、可12.5%、不可0.0% 標準偏差7.68</p> <p>○2022年度 全体平均77.8、英語学科平均75.0、秀7.1%、優50.0%、良28.6%、可0.0%、不可14.3% 標準偏差15.24</p> <p>○本年度は可はいないが不可が2名、秀が1名のみと昨年度より低下した。データの散らばりも大きくなり、秀と優の合計人数内で下方に推移している。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>○授業の進め方としては(1)道德とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道德教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道德の授業を組み立てる、というものであった。</p> <p>(3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。</p> <p>○本年度は実際の学校現場で用いられている各種資料の参照、理解度を深めるための課題等について多様な形式を工夫した。</p> <p>○指導案作りに関しては、いくつかの段階を踏んで作成できるよう課題作成・提出を組み合わせた。</p> <p>○今年度は道德教育の評価に関する学習を強化した。</p> <p>○児童生徒を意識した授業づくりの楽しさを一層感じることができる授業としたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>○達成状況はある程度満足できるレベルにある。</p> <p>○次年度は秀レベルの学生が増えるよう、具体的な学習指導案研究の部分を強化したい。</p> <p>○授業実践動画の視聴と検討に時間をかけたが、これは比較的理解を深めるきっかけとなったと思う。次年度も同様の試みを継続する予定である。</p>
-------------------------------	---